

第四表 累年別鑛區

年次	金		金銀		金銅		金銀銅		砂金		銅		水銀		計	
	面積	面積	面積	面積	面積	面積	面積	面積	面積	面積	面積	面積	面積	面積	面積	面積
昭和十年	3	266,597	21,715,468	1	33,564	35,768,977	568,616,136	54,643,429	4	670,248	1					
同 九年	3	484,529	21,715,468	1	33,564	35,768,977	424,622,381	44,028,812	4	670,248	1					
同 八年	52	139,089	-	-	25,546,806	2	255,735	312,393,641	3	668,643	2	246,248	-			
同 七年	51	986,508	-	-	25,546,806	1	210,605	282,012,571	3	668,643	2	246,248	-			
同 六年	51	986,508	-	-	24,086,935	1	210,605	231,812,238	3	668,643	1	156,467	-			
同 五年	51	986,508	-	-	24,086,935	1	210,605	191,429,875	3	668,643	1	86,803	-			
同 四年	51	986,508	-	-	13,400,176	1	210,605	151,206,508	65,236,743	1	86,803	-				
同 三年	51	986,508	-	-	13,400,176	1	210,605	161,466,273	65,236,743	1	86,803	-				
同 二年	51	986,508	-	-	13,400,176	1	210,605	161,560,597	65,236,743	1	86,803	-				
同 元年	3	1,625,874	-	-	13,400,176	1	210,605	151,334,839	86,436,743	1	86,803	-				

3. 鑛 産 額

昭和十年中ノ鑛産價額ハ二千二百八十三萬八千七百五十一圓ニシテ前年ニ比シ三百八十九萬一千八十四圓ヲ増加シ本島鑛産額ノ最高記録ヲ樹立セリ

鑛産物ノ主ナルモノハ石炭、金銀銅鑛、金、金銀鑛、金銀澱物、天然瓦斯、カーボンブラツク等ニシテ石炭首位ヲ占メ九百八十六萬八千九百九十三圓全額ノ43%ニ相當ス、金銀銅鑛次位ヲ占メ三百九十九萬五千八百五十四圓ニシテ全額ノ17%ニ當レリ、金ハ三百四十九萬四千四百四十四圓ニシテ三位トナリ金銀鑛、金銀澱物、天然瓦斯、カーボンブラツクノ順位ニテ之ニ次ギ其他ノモノハ其ノ産額五十萬圓ニ達セズ、増加ノ主ナルモノハ石炭ノ百四十萬圓、金銀鑛及金銀銅鑛ノ百三十萬圓、天然瓦斯ノ五十二萬圓、金ノ三十三萬圓ニシテ其原因ハ金價ノ昂騰ニ刺戟セラレタル金鑛業ノ活況ト銅市況ノ好調ニヨリ金銀銅鑛採掘ヲ益々有利ナラシメタルト炭價ノ高騰ニヨリ炭況著シク活潑トナリタルニ因ル、鑛産物中減産ヲ見タルハ天然揮發油、カーボンブラツク、天然瓦斯、砂金、金銀澱物、汰鑛等ナレドモ其ノ額ハ僅少ナリ、各州別ニ鑛産物ノ分布ヲ見ルニ新竹州下ノ石油並ニ之ガ副産物ト石炭花選港廳下ノ砂金以外ハ總テ臺北州下ニ産シテ其價額一千九百九十七萬八千九百五十六圓全産額ノ87%強ヲ占ム

數及鑛區面積表

銀水銀	銅硫化鐵	石	炭	煙	炭	石	油	硫	黃	燐	計	
												面積
156,467	1	339,058,468	119,849,550	-	-	70	49,049,669	221,122,444	2	133,993	638	192,365,600
156,467	1	339,058,472	119,606,978	-	-	54	43,962,391	221,122,444	2	133,993	611	182,655,310
-	1	339,058,472	120,335,026	-	-	50	40,377,159	231,164,444	2	133,993	593	173,596,842
-	1	336,058,470	121,438,691	1	45,555	46	29,953,830	221,111,144	2	133,993	583	163,693,652
-	1	339,058,520	127,274,587	1	45,555	46	30,290,313	231,144,926	2	133,993	628	168,149,828
-	1	339,058,569	143,582,159	1	45,555	46	31,070,880	241,248,991	2	133,993	674	184,890,005
-	1	339,058,596	148,594,000	1	45,555	42	20,985,838	241,316,678	2	133,993	695	183,542,465
-	1	339,058,640	157,029,679	1	45,555	52	24,898,444	271,446,550	2	133,993	758	196,280,392
-	1	339,058,659	164,525,765	1	45,555	52	24,898,444	271,446,550	2	133,993	772	203,870,800
-	1	339,058,634	159,567,871	1	45,555	52	24,947,997	281,493,876	2	133,993	747	199,623,390

第一表 昭和十年鑛産額及價額 (前年比較) (1)

鑛 種	數量	昭和十年		昭和九年		比較増減(△印ハ減)	
		單位	數	價 額	數	價 額	數
金	瓦	1,131,862	3,494,040	1,002,928	3,169,393	128,934	324,647
砂	金	25,737	62,477	43,269	99,068	△17,532	△36,591
銀	同	329,212	21,542	296,941	15,085	32,271	6,457
金銀澱物	坩	11,121	623,118	12,710	445,794	△1,589	△177,324
汰	鑛	232	20,127	624	56,286	△382	△36,159
金銀銅鑛	同	104,384	3,995,954	130,297	5,008,812	△25,913	△1,012,858
金銀鑛	同	65,085	2,330,178	-	-	65,085	2,330,178
銅	坩	2,411,204	376,072	2,299,163	327,970	112,036	49,102
銅	鑛	45	450	-	-	45	450
燐	鑛	91	365	-	-	91	365
石	炭	1,596,672	9,868,193	1,520,926	8,470,375	75,746	1,397,818
硫	黃	1,071	65,553	1,079	75,114	△8	△9,561
原	油	6,645	384,860	5,577	308,951	1,068	75,909
トッピング揮發油	同	676	54,899	570	34,293	106	20,606
プロペン瓦斯	同	133	6,011	126	6,283	7	△272
天然揮發油	同	5,353	435,484	6,462	382,922	△1,109	△52,562
カーボンブラツク	坩	1,237,294	516,125	1,367,197	498,267	△129,903	△27,858

第四表 累年鑛産價額表 (單位圓) (2)

鑛種	昭和十年	同九年	同八年	同七年	同六年	同五年	同四年	同三年	同二年
水銀	—	—	—	—	2,488	—	7,572	—	—
石炭	9,868,193	8,470,375	7,681,699	6,571,195	7,164,598	9,613,416	10,064,568	13,547,784	16,933,170
硫黃	65,553	75,114	62,075	37,148	51,290	33,217	33,670	54,221	49,014
銅	365	—	—	—	648	2,448	—	—	—
原油	384,830	308,951	424,677	245,944	263,631	381,304	434,735	730,021	1,906,374
トツピング揮發油	54,899	34,293	47,698	20,580	49,044	101,632	215,264	110,111	—
プロペン瓦斯	6,011	6,283	5,485	1,105	—	—	—	—	—
天然揮發油	435,484	382,922	527,159	973,423	1,745,231	659,097	167,334	91,129	100,699
カーボンプラック	516,125	488,267	341,079	205,527	43,552	—	—	—	—
天然瓦斯	583,403	59,054	56,831	58,169	—	—	—	—	—
計	22,833,751	18,947,667	15,196,250	13,950,889	13,337,790	15,141,198	14,846,687	16,513,301	21,102,674

4. 鑛山事業ノ概況

一、各種鑛業ノ概況

(イ) 金

金瓜石鑛山ニテハ先年來計畫セシ擴張工事ハ着々進捗シ本年中ニハ本山及長仁各粗選鑛場、水南洞ノ選鑛製鍊所ノ第一期工事(月取採鑛量選鑛二萬噸製鍊一萬噸)ヲ完了シ引續キ第二期工事ヲ進行中ナリ、新選鑛製鍊所ノ建設ニヨリ中心ガ水南洞ニ移動セシ爲坑外運搬系統モ總テ變動ヲ來シ「エンドレス」架空索道ノ新設ヲ見タリ取採鑛量ノ増加ニ伴ヒ採鑛施設及坑内運搬設備ヲ充實合理化シ更ニ鑛石ノ内地輸送ニ當リ現積込所タル燒子寮ニテハ極メテ不便ナルヲ以テ之ヲ基隆市附近ニ移ス爲専用鐵道ノ敷設工事ヲ起工スル等飛躍的發展ヲ遂グツ、アリ瑞芳鑛山ニテモ從來ノ手掘採掘ヲ漸次機械化シ鑛量ノ増加ニ伴ヒ搗鑛場ヲ増設シ更ニ從來省ミラレザリシ貧鑛處理ノ目的ニテ選鑛製鍊所ヲ新設シ之ガ元鑛運搬用トシテ架空索道ヲ架設スル等金瓜石ニ劣ラザル進展ヲ遂ゲ從テ兩鑛山共開發以來最高ノ産金額ヲ示セリ

(ロ) 砂 金

金時價ノ奔騰ニ刺戟セラレ稍々活況ヲ呈シタル基隆川沿岸ノ砂金採取事業モ鑛床ノ品位低下セルト河川法ノ掣肘ヲ受クルコトニ因リ其ノ稼行意ノ如クナラズ、又

東部砂金地ノ開發モ尙試掘時期ニアリテ進展ヲ見ズ爲ニ昨年ニ比シ其ノ産額激減セリ

(ハ) 銅

金瓜石鑛山ニ於ケル増産計畫ノ進行ニ伴ヒ金銀銅鑛石ノ増産著シク同時ニ沈澱銅モ前年ニ比シ多少ノ増加ヲ見タリ本年ハ臺北州下東澳鑛山ノ稼行セラレタルアリテ銅鑛四十五噸ヲ産出セリ尙花蓮港廳下巖銅山モ採鑛ニ着手シ東部銅鑛床開發ノ機運頗ル濃厚トナリタリ

(ニ) 石 炭

數年來不況ニ沈淪セシ炭業界モ各種好條件ニ恵マレシコトニ因リ頗ル活潑トナリ漸ク軌道ニ乗りタル觀アリ本年新ニ稼業セシ十數鑛區ハ未ダ出炭スルニ至ラザルモ前年來稼業ニ着手セルモノハ次第ニ其ノ出炭量ヲ増加シ前年ニ比シ約七萬五千噸ヲ増産シ需給ノ均衡ヲ維持セリ

(ホ) 硫 黃

本島ノ硫黃産地ハ臺北州下大屯火山麓附近ニ限ラレ鑛床ノ規模大ナラズ、從ツテ其ノ稼行法モ亦原始的ニシテ産額大ナラズ今年ノ産額ハ前年ト大差ナシ

(ヘ) 石 油

出礦坑鑛山ニテハ前年ヨリ掘進繼續中ナリシ「ロ」式第七十五號井同第七十六號井同第七十七號井ノ成功ニヨリ産油前年ニ比シ20%ノ増加ヲ見タリ、錦水鑛山ニテハ天然瓦斯ノ減少ニ伴ヒ揮發油、カーボンプラック等稍々減産ヲ示セリ、竹東油業所ニテハ「ロ」式第一號井同第二號井等ノ成功ニヨリ天然瓦斯ノ埋藏莫大ナルヲ確認セルニヨリ「ガソリンプラント」ノ建設ヲ企劃シ尙之ガ有利ナル利用方法ヲ考究中ナリ本島油田ノ開發事業ハ益々本格的トナリ本年ニ入りテヨリ臺北州下ノ中和、新竹州下ノ通霄、臺南州下ノ六重溪、九層林等ニテ夫々試掘セラレ、ニ至リ試掘油田十箇所ニ及ブニ至レリ

二、操業方法及設備ノ概況

(イ) 金 屬 山

(1) 金瓜石鑛山

本鑛山ニテ稼行スル鑛床ハ本山鑛床ト長仁鑛床群トニ大別セラレ、本山鑛床ハ

其露頭ヨリ本山四坑地並ニ至ル區域ハ主トシテ金銀鑛ヲ四坑地並ヨリ下部ハ主トシテ含金銀硫砒銅鑛ヲ產出ス、長仁鑛床群ハ第一、第二、第三、第四各長仁坑、松尾、龜尾等ノ鑛床ヲ總稱シ何レモ金銀鑛ヲ產出シ第一長仁坑ノ一部ノミニ千分ノ七内外ノ銅鑛ヲ產ス、採鑛方法ハ上向階段法ニヨリ採掘跡ハ捨石ヲ以テ充填ス、掘進ニハ大部分鑿岩機ヲ使用シ長仁鑛床ノ一部ニ於テ手掘ヲ併用ス金銀鑛ハ何レモ粗選鑛場ニテ精鑛ト低品位金銀鑛トニ選別シ精鑛ハ佐賀關製鍊所ニ送リ、低品位金銀鑛ハ新設水南洞製鍊場ニテ青化製鍊ニ付シ金銀廢物ヲ採取シテ之ヲ佐賀關製鍊所ヘ賣鑛ス、本山鑛床ノ含金銀銅鑛ハ水南洞ノ新設選鑛場ニ集メラレ比重選鑛及浮游選鑛ニ付シソノ精鑛ハ濃泥脫水ノ後之ヲ專用鐵道ニテ水南洞ヨリ煖子寮ニ搬出シ同所ニテ汽船ニ積込ミ佐賀關製鍊所ニ送付ス

(2) 瑞芳鑛山

露頭部(露頭ノ最高部ハ海拔五百十五米)毎ニ鑛押坑道ヲ開鑿シ以下二百四十米迄ハ鑛入坑道ニヨリ鑛脈ニ到達シ、左右ニ鑛押坑道ヲ開鑿シ垂直三十米毎ニ中段坑道ヲ設ケ何レモ採掘方法ハ上向或ハ下向階段法ヲ採用ス元鑛ハ上鑛、中鑛及並鑛ニ手選シ上鑛場ハ自由製鍊場ニ集メ中鑛ハ各坑口附近ニ設置セラレタル搗鑛場ニテ夫々製鍊セラレ並鑛ハ從來省ラザリシモ本年中選鑛場ヲ新設シ浮游選鑛ヲ行ヒ精鑛ハ佐賀關製鍊所ニ賣鑛スルニ至レリ

坑内採掘作業ハ概ネ請負ニシテ一定ノ區域ヲ定メテ貸區シ作業ノ難易ヲ參酌シテ産金歩合ヲ定メ搗鑛及製鍊ハ手數料ヲ徴シ或ハ請負又ハ直營ニテ稼業ス

(ロ) 石炭山

數年前ノ不況時代ノ對策トシテ生産費ノ遞減ヲ圖ルベク切場ノ集中、坑内作業ノ機械化等ニ着眼シ基隆附近ノ炭礦ハ其ノ面目ヲ一新セルモ尙舊套ヲ脱シ得ザル炭礦ハ其ノ數ニ於テ頗ル多シ、主要炭礦ニ就キ操業方法及設備ノ概況ヲ述ブレバ次ノ如シ

(1) 基隆二坑

斜坑ヲ以テ開坑シ採炭區域ヲ左右兩部及中層部並ニ第二斜坑部内ニ分ツ、左部ハ炭厚二尺乃至二尺三寸傾斜十三度乃至二十六度ニシテ片磐四條ヲ有シ、前進式長壁法手掘採炭ヲ行ヒ片磐捲筒所ノ外人力運搬ヲナス、右部ハ炭厚二尺乃至

二尺五寸傾斜五度乃至二十五度片磐五條ヲ有シ、前進式長壁法ヲ行ヒ内一箇所ニ「コールカッター」、「コンベヤー」ヲ併用シ他ハ人力採炭ヲナス中層部内ハ炭厚平均一尺傾斜十二度乃至五十度片磐五條ヲ有ス、第二斜坑部内ハ炭厚一尺四寸乃至二尺三寸傾斜十三度乃至五十度片磐四條ヲ有ス、兩部内共前進式長壁法手掘採炭ヲナス、通氣、排水、選炭等ハ多ク機械ヲ使用シ其ノ動力ハ坑外運搬用ノ小型蒸汽機關車ヲ除キ總テ電力ナリ

(2) 基隆三坑

斜坑ヲ以テ開坑シ左右兩部内ニテ稼行ス右部内ハ炭厚二尺乃至四尺傾斜十度乃至二十五度ニシテ片磐九條ヲ有シ前進式長壁法昇拂ヲナス

左部内ハ炭厚一尺七寸乃至三尺五寸、斜傾六度乃至二十九度ニシテ片磐十條ヲ有シ前進式長壁法並ニ昇拂式ヲ行ヒ總テ人力採炭ヲナス

通氣、排水、選炭ハ總テ機械力ニヨリ其ノ動力ハ電氣ヲ用ヒ坑外運搬ハ人力ニ依レリ

(3) 瑞芳一坑

斜坑ヲ以テ開坑シ採掘區域ヲ右斜坑左斜坑及深卸部内ニ分ツ、右斜坑部内ハ炭厚三尺二寸乃至四尺一寸、傾斜十度乃至三十四度片磐三條ヲ有シ前進式長壁法手掘採炭ヲナス左斜坑部内ハ炭厚三尺二寸、乃至四尺一寸傾斜八度乃至十五度片磐六條ヲ有シ前進式長壁法手掘採炭ヲナス深卸部内ハ炭厚三尺三寸乃至三尺五寸、傾斜十五度乃至二十三度片磐二條ヲ有シ、「コールカッター」一臺使用シ他ハ手掘採炭ヲナセリ、運搬、通氣、排水ハ總テ機械力ニヨリ其ノ動力ハ電氣トス

(4) 瑞芳三坑

水平坑ニテ開坑シ後斜坑ヲ卸シ稼行セシモ斜坑部内ハ殆ンド採炭完了シ僅カニ新坑部内ヲ稼行スルノミニシテ他ハ水平部殘炭整理中ナリ附屬坑タル猴硯坑ハ水平坑ヲ以テ開坑シ後斜坑ヲ卸ス炭厚六寸乃至二尺六寸傾斜二度乃至七度片磐四條ニテ稼行シ昇拂水力採炭トス、運搬、通氣、選炭、排水ハ總テ機械力ニ依リ其ノ動力ハ電氣トス本坑ハ近ク採炭ヲ完了シ爾後ハ専ラ猴硯坑ヨリ出炭ヲナス計畫ナリ

(5) 萬里二坑

斜坑ヲ以テ開坑シ稼行セシモ豫定區域ヲ探掘シ目下退却中ニシテ坑口附近僅カニ片盤ニヨリ稼行セリ炭厚二尺六寸乃至四尺八寸、傾斜七度乃至十度昇拂手掘採炭ヲナス、新二分坑ハ斜坑ヲ以テ開坑シ炭厚三尺三寸乃至三尺七寸、傾斜六度乃至十度ニシテ片盤一條ヲ有シ新二分坑ハ水平坑ヲ以テ開坑シ其ノ炭厚ハ二尺六寸乃至三尺二寸傾斜六度乃至十度片盤三條ヲ有ス、一坑分坑ハ斜坑ヲ以テ開坑シ炭厚四尺二寸乃至七尺五寸傾斜五度乃至八度ニシテ片盤二條ヲ有ス各坑共昇拂手掘採炭ヲナシ一部ニ殘柱式ヲ併用ス、運搬、通氣、排水ニハ主トシテ機械力ヲ用ヒ動力ハ坑外小型機關車及主捲ノ蒸汽力ヲ除キ總テ電氣トス

(6) 石底一坑

斜坑ヲ以テ開坑シ、三十度ノ傾斜ヲ以テ炭層上盤ヨリ堅入ヲ掘鑿シ三百六十四米ニテ着炭後左ニ折レ三十度ノ偽傾斜ニテ本卸ハ炭層下盤、連卸ハ上盤内ヲ掘進ス採炭區域ハ左右兩部ニ分レ左部ハ本卸六片盤ヨリ炭層下盤内二十七度ノ偽傾斜ニテ捲卸ヲ掘進中ニシテ右部ハ三片盤捲立ヨリ三百米奥ニ右卸ヲ炭層ニ沿ヒ二十七度ノ傾斜ニテ掘進中ナリ炭層ハ傾斜四十度乃至五十度炭厚三尺採炭方式ハ前進式後退式ノ兩法ノ長壁法ヲ採用シテ人力ニ依リ採炭スルモ一部ニ「オーガー」ヲ使用シ發破採炭ヲ試ミツ、アリ、運搬通氣排水等ハ總テ機械ニヨリ動力ハ電氣トス

(ハ) 石油山

(1) 出礦坑鑛山

本鑛山ノ背斜軸ハ其ノ延長南北約十三軒ノ長キニ亘レルモ現在稼行セルハ後龍溪南岸ヨリ南約二軒ノ間ニシテ其ノ稼行ノ區域ヲ二等分シ、北ヲ北寮、南ヲ南寮ト稱ス、量モ豊富ナル出油層ハ第二層(約七百二十米)ニシテ第一層(約五百米)ハ北寮ニ發達シ第二層第三層ハ全般ニ發達スルモ南寮ニ於テハ第二層ヲ主トシテ採取ス、今日迄掘鑿セル坑井ハ全部ニテ七十九坑ニシテ掘鑿方式ハ主トシテ「ロータリー」式ニヨルモ、下部油層ニ對シテ綱式掘鑿法ヲ併用スル事アリ、鑛場内ニ「トッピング」揮發油採取裝置、吸收式揮發油採取裝置ヲ有ス前年度ヨリ掘進繼續中ナリシ「ロ」式第七十五號同第七十六號同第七十七號ハ夫々三月二十一日、五月二十三日、四月十五日成功シ年末ニ於ケル採油井ハ二十七

坑井ナリ、本年新ニ開坑セルモノハ「ロ」式第七十八號「ロ」式第七十九號ノ二井ニシテ年末ニ於ケル深度ハ夫々一千三十一米、七百六十四米ナリ

(2) 錦水鑛山

本鑛山ノ背斜軸ハ兩翼ノ地層傾斜十度乃至二十度ノ極メテ緩漫ナルモノニシテ已ニ調査済ノ有望地域延長約八軒ニ亘リ、構造概ネ良好ニシテ埋藏量ノ豊富ナルヲ豫想セラレ將來ヲ期待セラル、今日迄知ラレタル瓦斯層ハ五百米、八百米、九百米、千米、千二百米、千三百米、千四百米ノ八層ニシテ總テ「ロータリー」式ニテ當時六坑程度ノ掘鑿ヲナシ、或ハ淺層或ハ深層ノ瓦斯採取ヲ試ムベク努メツ、アリ、「サウス・ウエスタン」式揮發油採取裝置(處理瓦斯量一日五千萬立方呎)ニ基テ「チャンネル」式「カーボンブラック」採取裝置(生産能力一日百三十六疋)三基ヲ有ス、今日迄掘鑿セル坑井ハ三十三井ニシテ總ベテ「ロータリー」式掘鑿法ニヨル年末ニ於ケル瓦斯採取井ハ七坑井ニシテ第三十一號井、第三十二號井ノ兩井及ビ第二十六號井、第二十八號井、第二十九號井ノ三掘下井ヲ掘進中ナリ本年中成功セシモノハ第二十八號、第二十九號、第三十號、第三十三號ノ四井及第二十六號掘下井ナリ

(一) 探鑛

(4) 金屬山

(1) 金瓜石鑛山

昭和八年度ノ調査ヲ終リタル武丹坑鑛床ハ愈々其ノ下底ニ相當ナル埋藏量アルヲ確認セシニヨリ武丹坑三番坑本山六坑ヨリ其ノ下底ニ向ヒ探鑛掘進中ナリ半平山鑛床ハ四番坑(海拔三百五十米)ニテ着鑛シ今尙懸押掘進ヲナセリ、而シテ此ノ鑛體ハ尙下底ニ深ク連續セルモノト想傾セラル
次ニ昭和九年末發見セシ本山鑛床東部平行脈ハ其後著シキ發展ヲ遂ゲ各中段ハ之レニ向ヒ探鑛掘進ヲナシ夫々想像地點ニテ着鑛ヲ見其ノ鑛質良好ニシテ脈勢モ亦優勢ナリ
尙本山鑛床ノ最下低探鑛ヲ目的トセル本山七坑(坑口ノ地並海拔八米八)ハ其ノ本坑道ニ於ケル本年度末總延長ハ實ニ二千九百四十一米ヲ見鑛質佳良ニシテ海水面以下ニ深ク連續スベキコトヲ豫想セラル、ニヨリ更ニ下底ヘノ探坑準備中ナリ

(2) 瑞芳鑛山

鑛脈ハ甲鑛、乙鑛、甲鑛、下磐鑛、丙鑛、永代鑛、接觸鑛、寶鑛、福巳鑛、龜鑛ノ主脈ノ外六十有餘ノ支脈存在シ各脈殆ンド相平行シテ存在スル關係上海拔三百米以上ハ露頭ヨリ三百米以下ハ鑛入ニヨリ主脈ニ着脈シ適宜ノ距離ヲ隔テテ鑛入ヲ開鑿シ各脈ヲ探鑛シ鑛押坑道ヲ分岐シテ採掘ヲ開始ス

(3) 巖鑛山

本年一月開坑シ第一號露頭ヲ目的トシテ鑛押坑道ヲ掘進セリ、掘進豫定ハ五百米ニシテ本年中百四十六米ニ達セリ鑛床ハ第二號露頭下底ニ於テ好變ノ見込ヲ以テ目下鋭意掘進中ナリ

(4) 東澳銅山

鑛床ノ各露頭部ヨリ鑛押坑道ヲ開坑シ其ノ性質分布状態ヲ探鑛中ナリ

(ロ) 石炭山

石炭山ニ於ケル探鑛ハ僅カニ地表ニ於ケル示準岩磐ト坑内ニ於ケル先導坑道トニ依リ直前ノ炭層状態ヲ推知シ居ル現況ナレバ特記スベキモノ尠シ

(1) 基隆二坑

前年八月頃ヨリ左斜坑及右斜坑延先ニ「ストライクワイズ」ノ落ち込ミ斷層出頭シ爾來斷層先ヲ探鑛中ノ處本年十一月末右斜坑延ニ於テ本層炭座ニ達着セリ

(2) 瑞芳一坑

本卸詰及充填卸詰ニ於テ大斷層ニ達着シ夫レヨリ深部ノ炭層存賦状態確認ノ爲本卸詰及充填卸詰左ニ片奥ニテ坑道探鑛ヲ行ヒツ、アリ

(ハ) 石油山

本年中ニ爲サレタル探鑛ノ主ナルモノ次ノ如シ

(1) 出礦坑鑛山

本鑛山第三層(約九百米)ノ北部ニ於ケル發達状態ヲ探究スル爲北部ニ掘鑿セル「ロ」式第七十五號井ハ本年六月十二日深度八百八十二米ニテ成功シ日産五・二六并ノ出油ヲ見タリ明年度ハ更ニ北部ノ試掘ヲナス豫定ナリ

(2) 錦水鑛山

本鑛山ハ瓦斯層及水層ノ關係複雑ナルニ依リ「コア」ヲ採取シテ研究ヲ進メ

瓦斯採取ノ完全ヲ期スベク努力セリ、深油層探鑛ノ目的ニテ昭和九年九月二十八日開坑セシ「ロ」式第三十二號井ハ開坑以來順調ナル掘進ヲ續ケツ、アリシガ本年四月十一日深度千七百五十米ニテ約五千萬立方呎ノ瓦斯猛噴シ數時間後之ニ引火シ同月二十七日迄燃焼ヲ持續シテ掘進作業上一大障礙ヲナセリ該火災ニヨル損害ハ莫大ナリシモ本井ノ持つ使命ノ重大性ニ鑑ミ多大ノ犠牲ヲ拂ヒ之ガ掘進ヲ繼續スルコト、シ年末深度二千二百六十三米ニ達セリ

(3) 牛肉崎鑛山

本鑛山ニテハ既ニ數度豊富ナル瓦斯ノ噴出ヲ見タリシヲ以テ前年以來「ロ」式第三號井ヲ繼續掘進中ノ處本井ハ深度千六百十三米ニテ掘管抑留セラレ掘進不能ニ陥リ廢坑ノ已ムナキニ至リシヲ以テ更ニ「ロ」式第四號井ヲ本年十月十七日豫定深度二千三百米ヲ以テ開坑シ年末深度六百九十二米ニ達セリ

(4) 竹東油業所

操業ハ未ダ試掘時代ナルヲ以テ將來施業ノ標準タルベキ地層ノ狀況ヲ明瞭ナラシムル爲總ベテ岩心採取ノ掘鑿法ヲ行ヒツ、地下ノ出水瓦斯及石油層ノ存在ヲ探究シツ、アリ現試掘井ハ前年ヨリ引續キ掘進中ナル「ロ」式第三號井、並ニ本年開坑セシ「ロ」式第五號井、同第六號井ノ三井ナリ

(5) 其他ノ鑛山

以上四油田ノ他前年新ニ開發セラレタル湖口及寶山兩油田ニテハ引續キ第一號井ヲ試掘中ナリ、尙本年ハ更ニ臺北州下ノ中和、新竹州下ノ通霄、臺南州下凍子脚、六重溪ノ四油田ニ試掘ヲ開始セラレ、ニ至レリ

(二) 採鑛及採炭方法

(1) 金屬山

(1) 金瓜石鑛山

一般ニ上向段缺法ニヨル鑛體ノ延長ニ沿ヒテ三十米乃至四十米毎ニ横坑道ヲ設ケ其ノ延長二十米毎ニ堅坑ヲ作り上下ノ補助横坑道ヲ連絡シ土砂充填、送風管設置運搬交通等ノ用ニ供ス鑛石ノ採掘ニ際シテハ運搬坑道ヲ安全ナラシムル爲坑道ノ天井ニ高サ五米内外ノ鑛柱ヲ殘シ共レヨリ上部ニ採掘坑道ヲ開設シ腰割ヲナシテ鑛體ノ幅全部ヲ表ハシテ上向段缺ノ準備ヲ終ル、一段缺ノ高サ二米トシ水平ニ缺段ヨリ又鑛體ガ比較的脆弱ニテ幅廣キ所ニテハ「ホリゾンタル、ス

「ライス」ニヨリテ採掘シ探掘跡ハ土砂ヲ以テ充填ス、斯ノ如クシテ段缺ガ上部坑道ニ達スル迄ニ上部坑道デハ鑛體ノ兩側岩盤中適宜ノ位置ニ切塊坑道ヲ設ケテ完全ニ龍頭拂ヲ行フ、探掘シタル鑛石ハ探掘跡ニ約二十米毎ニ組上ゲタル鑛井ノ中ニ投下ス而シテ各坑道ノ掘進並ニ鑛石ノ採掘ハ主トシテ鑿岩機ニヨル

(2) 瑞芳鑛山

主脈ノ錘押坑道及ビ之ニ直角ニ開鑿セララル坑内鑛入坑道ニヨリ採掘セララル、殘餘ノ並行主脈及ビ各支脈ハ品位ニヨリ隨意錘押坑道ヲ分岐シ上向又ハ下向階段法ニヨリ手掘採掘ヲナス、大竿林七番坑、九分九番坑、大切坑ハ九番坑口及坑内ニ設置セル百馬力壓氣機、九分八番坑鑛入ハ着脈點ニ設置セル五十馬力壓氣機又小粗五番坑ハ三十馬力、五十馬力壓氣機ニヨリ夫々鑿岩機ヲ使用シ掘進、採掘ヲナシ他ノ坑ハ手掘ニ依ル

(ロ) 石炭山

本島ニ於ケル採炭方式ハ從來殘柱式ヲ採用シツツアリシモ近年漸次長壁式ニ改メラレツツアリ最近ニ至リテハ拂面ノ長サ五十間以上ニ達スルモノアリ、然レ共從來ノ慣習ニヨリ尙殘柱式ニ依ルモノ多シ、採炭切場ノ機械化モ漸次ソノ範圍ヲ擴大シツツアルモ未ダ全出炭ノ一割ニ達セズ大部分ハ手掘ニ委スル状態ニアリ、各主要炭礦ニ於ケル採炭法ハ重複スルヲ以テ省略ス

(ハ) 石油山

(1) 出礦坑鑛山

晝夜繼續作業ニテ大部分「ポンピングパワー」ニ依リ採油ヲナス坑井ヨリ自然壓力ニヨリ噴出ノ天然瓦斯ハ鐵管線ニヨリ「ガソリンプラント」ニ通ジ之ヨリ揮發油ヲ採取シ、乾性瓦斯ハ鑛場用燃料ニ供セリ。原油ハ「ポンピングパワー」又ハ單獨備付ノ「スチームエンジン」ニテポンプヲ上下シテ汲ミ上ゲ貯油層ニ導入シ鐵管線ヲ以テ苗栗ニ在ル製油所ヘ流送ス

(2) 錦水鑛山

坑井ノ掘鑿ハ總ベテ「ロータリー」式鑿井法ニ依リ坑井ヨリ自然壓力ニテ噴出ノ天然瓦斯ハ鐵管線ニヨリ揮發油採取所ニ通ジ揮發油ヲ採取ス、採取後ノ乾性瓦斯ハ「カーボンブラツク」ノ製造並ニ自家用燃料、一般家庭用ニ供給シツツアリ

(三) 壓氣機、鑿岩機、截炭機「ニューマチック・ハムマービツク」類

壓 氣 機

第一表 本年度ニ於ケル新設又ハ増設セルモノ次ノ如シ

鑛山名	名 稱	キロワット	臺 數	備 考
金 屬 山				
金瓜石鑛山	日立製二段回轉式	224	3	本山ノ坑同四坑坑口掘付増設
同	同	178	2	同
同	ベンシルバニヤ	158	2	増 設
同	サ リ バ ン	110	1	同
同	インガーソルランド	340	2	新 設
瑞芳鑛山	ベンシルバニヤ	74.6	1	九分九番坑 新 設
同	藤村不二式	37.5	1	小粗坑五番坑 新 設
同	サ リ バ ン	22.4	1	大粗坑 新 設
石 炭 山				
瑞芳一坑	三池製往復單筒式	746	1	増 設
石底一坑	インガーソルランド	48.5	1	同
石底二坑	同	11.2	1	新 設

第二表 年末現在設備狀況次ノ如シ

種 別	臺 數			計	當該設備ヲ有スル鑛山數	備 考
	35kw未満	35kw以上 100kw未満	100kw以上			
金 屬 山						
インガーソルランド	—	2	3	5	2	總鑛山數 2
ベンシルバニヤ	1	1	4	6	2	金瓜石鑛山、瑞芳鑛山
スイスコモテイブ	—	—	2	2	1	
サ リ バ ン	1	—	1	2	2	
日立製作所	—	—	8	8	1	
オ リ デ ン	1	1	—	2	1	
藤村製作所	1	—	—	1	1	
計	4	4	18	26		
石 炭 山						
日立製作所	2	—	—	2	2	總鑛山數 9
三池製作所	—	3	—	3	2	
三國製作所	1	—	—	1	1	

種 別	臺 數			當該設備ヲ有 スル鑛山數	備 考
	35kw 未満	35kw以上 100kw未満	100kw 以上		
ペンシルバニヤ	1	-	-	1	
インガ-ソルランド	-	3	-	3	
藤村不二式	3	-	-	3	
計	7	6	-	13	

整 岩 機 (「オーガー」ヲ含ム)

第一表 本年度ニ於ケル新設又ハ増設セルモノ次ノ如シ

鑛 山 名	名 稱	臺 數	備 考
金 屬 山			
金瓜石鑛山	デンバーモデル 七番型	4	増 設
同	同 一〇七番型	28	同
同	同 四二番型	56	同
同	インガ-ソル C.C. 一 番型	82	同
同	足 尾 式 一 番型	30	同
同	日 立 式 H 三番型	25	新 設
瑞 芳 鑛 山	デンバーモデル 四一 番型	19	同
石 炭 山			
基隆三坑	足尾式 一 番型(空動)	4	新 設
瑞芳一坑	同 一 番型	5	同

第二表 年末現在管内設備状況次ノ如シ

種 別	空動及電動別臺數	當該設備ヲ有 スル鑛山數	備 考
金 屬 山			
フ ロ ッ ト マ ン	空 氣 動 5	1	總鑛山數 2
インガ-ソルランド	同 7	1	
アトラスディーゼル	同 6	1	
足尾製作所(インガ-ソル)	同 83	2	
大成製作所(インガ-ソル)	同		
東亞電氣製作所(日立式)	同 25	1	
デ ン バ ー	同 321	2	
足尾製作所(デンバー)	同		
大成製作所(デンバー)	同		
日 立 製 作 所	同 9	1	
計	456		

種 別	空動及電動別臺數	當該設備ヲ有 スル鑛山數	備 考
石 炭 山			
足 尾 製 作 所	空 氣 動 42	9	總鑛山數 11
インガ-ソルランド	同 8	4	
フ ロ ッ ト マ ン	同 10	2	
デ ン バ ー	同 4	1	
三 池 製 作 所	電 動 10	2	電動ノモノハ總テ耐爆型
コ-ルドリル(三池製)	2	1	
計	76		

截 炭 機

現在截炭機ヲ使用セルハ基隆二坑及瑞芳一坑ノミニシテ、同機ニ依リ上硬透シヲ行ヒ必要ニ應ジ「オーガー」ヲ併用シ火藥掘ヲ行ヒツツアリ

本年度ニ於テ截炭機ヲ新設又ハ増設セルモノナシ

年末現在使用状況次ノ如シ

型 式	種 別	空 氣 動 及 電 動 別 臺 數	當該設備ヲ有 スル鑛山數	備 考
チ エ ー ン 型	サリバン C.L.E. 2番型	電 動 2	2	總鑛山數 2
同	サリバン C.H. 8番型	同 1	1	全部耐爆型
同	三池製 M.C.E. 2番型	同 3	2	

「ニューマチック、ハンマービツク」

現在使用セル炭礦ナキニツキ省略ス

(四) 坑内運搬設備

(1) 金 屬 山

(1) 金瓜石鑛山

鑛石及捨石ハ上下坑道ヲ連絡スル堅坑ヲ通ジ自重ニヨリ主要坑道ニ收集シ手押又ハ電車本山五坑、六坑、七坑ニテ坑外ニ搬出ス、尙本山六坑々口ヨリ二・六軒ノ地點ニ六坑、七坑間ヲ連絡スル垂直百六十米ノ堅坑ヲ、同ジク坑口ヨリ一軒ノ地點ニ五坑、六坑ヲ連絡スル百三十米ノ堅坑ヲ開鑿シ運輸ノ圓滑ヲ計リツ、アリ

(2) 瑞 芳 鑛 山

各坑共手押運搬ニヨルモ最下底坑ノ九分九番坑ノミハ蓄電池機關車ニヨリ電車運搬ヲナシツ、アリ

(ロ) 石炭山

切羽運搬ハ主トシテ傾斜ヲ利用シテ片磐口貯炭場ニ自落セシメツ、アリ、傾斜ノ緩ナル切場ニテハ「スラ」ニ依ル、「スラ」ハ竹製ニシテ容量百五十斤乃至二百斤程度ノモノ多シ、炭車ノ容量ハ〇・五噸程度ノ木製ノモノ多ク、片磐ハ主トシテ手押ニ依レルモ近年ハ〇・七噸ノ大型鐵製炭車出現シ漸次其ノ容量ヲ増加シツ、アリ、斜坑運搬ハ總ベテ「コース」捲ニヨリ捲揚機モ漸次大型トナリ三百馬力ノモノ出現セリ、斯クシテ主要炭礦ニテハ機械化ノ普及ニ伴ヒ從來ノ「スラ」引運搬ハ「コムベヤー」運搬ニ代リ片磐ノ手押ニ依ルモノハ小型電氣捲揚機ニ代リ切場坑口間ヲ機械ニヨリ連鎖スルニ至レリ、瑞芳三坑ニテハ水平坑ヲ以テ開坑シ其ノ奥ニ斜坑ヲ卸セルニ依リ坑口、斜坑捲間ノ距離約八百米ハ蓄電池機關車ニテ坑外運搬ト共用シ瑞芳一坑、海山一坑ニテハ「エンドレス」裝置ヲ施設シ片磐運搬用ニ供セリ

第一表 本年度ニ於ケル新設又ハ増設セルモノ次ノ如シ

礦山名	種別	様式	キロワット (括弧内ハ臺數)	臺數計	備考
金屬山					
金瓜石礦山	電動捲揚機	橫軸複式	55.98 (1)	1	豎坑運搬用
同	電氣機關車	蓄電池式	9.00 (5)	5	本坑五坑及一坑坑内用
石炭山					
基隆二坑	電動捲揚機	單式	14.92 (1)	1	
萬里二坑	同	同	26.11 (1)	2	
番子坑	同	同	12.19 (1)		
瑞芳三坑	同	同	26.08 (1)	1	
瑞芳一坑	同	同	3.73 (1)	2	
石底一坑	同	同	15.0 (1)		
益隆炭礦	同	同	75.3 (1)	1	
益隆炭礦(社後二坑)	同	同	20.1 (1)	1	
賀田炭礦	同	同	26.8 (1)	1	
源豐炭礦(松山一坑)	同	同	53.6 (1)	1	
魚行炭礦	同	同	26.8 (1)	1	
			53.6 (1)	1	

礦山名	種別	様式	キロワット (括弧内ハ臺數)	臺數計	備考
金包里炭礦	電動捲揚機	單式	40.2 (1)	2	
和興炭礦	同	同	22.38 (1)		
深澳一坑	同	同	67.0 (1)	1	
武丹坑炭礦	同	同	13.4 (1)	1	
共榮炭礦	同	同	53.6 (1)	1	
木山一坑	蒸氣捲揚機	双汽筒 橫置式	40.2 (1)	1	
木山二坑	同	同	53.6 (1)	1	
木山三坑	同	同	53.6 (1)	1	
樹林炭礦	同	同	52.22 (1)	1	
伍分炭礦	同	同	53.6 (1)	1	
修記炭礦	同	同	16.08 (1)	1	
大和炭礦	同	同	34.84 (1)	1	
武丹炭礦	同	同	40.2 (1)	1	
大溪鐵業所	同	同	26.8 (1)	1	
逢記炭礦	同	同	24.12 (1)	1	
			9.38 (1)	1	

第二表 年末現在設備狀況次ノ如シ

豎坑捲揚機 (金屬山ノミ)

動力	様式	臺數			當該設備ヲ有 スル礦山數	備考
		35kw 未満	35kw以上 100kw未満	100kw 以上		
電氣	單式	—	1	—	1	金瓜石礦山
同	複式	—	1	—	1	

斜坑運搬機 (石炭山ノミ)

動力	様式	臺數			當該設備ヲ有 スル礦山數	備考
		35kw 未満	35kw以上 100kw未満	100kw 以上		
電氣	單式	35	15	6	56	26 總礦山數 61
蒸氣	同	36	11	4	51	41
重油	同	1	—	—	1	1

主要水平坑道及片磐坑道運搬機

種 別	臺 數				當該設備ヲ有 スル鑛山數	備 考
	35kw 未満	35kw以上 50kw未満	50kw以上	計		
電 車	蓄電池式	7	-	-	7	2 總鑛山數 7
	架空線式	8	-	-	8	
電 動 捲 揚 機	9	-	-	9	4	
エ ン ド レ ス	2	-	-	2	2	

註 電車ハ總テ金鑛山ニシテ他ハ石炭山

切 羽 運 搬 機

型 式	種 別	空 氣 動 及 電 動 別	臺 數	當該設備ヲ有 スル鑛山數	備 考
チ ー ン 型	三池製作所	電 動	9	3	耐 爆 型
セ ー カ ー 型	同	同	2	1	總鑛山數 3

(五) 坑外運搬設備

(イ) 金 屬 山

金瓜石鑛山ニテハ水南洞ノ新設選鑛製鍊所ノ竣工ニ伴ヒ順次運搬系統ノ改廢ヲ行ヒツ、アリ、本山系統ノ金鑛ハ手押又ハ「インクライン」ニテ本山粗選鑛場ニ集リ精鑛ハ鐵索ニヨリ中央停車場ヲ經テ煖子寮ニ、製鍊原鑛ハ鐵索ニヨリ水南洞製鍊所ニ搬出セラル長仁系統ノ金鑛ハ手押ニヨリ長仁粗選鑛場ニ集リ本山系統ノモノト同様手押輕便鐵索「インクライン」複式鐵索ニテ煖子寮ニ搬出シ製鍊原鑛ハ水南洞ニ搬出セラル金銅鑛ハ六坑々外ニ集積セラレ同所ヨリ「エンドレス」ニテ水南洞選鑛場ニ搬出セラル選鑛製鍊所ノ精鑛ハ同所ヨリ煖子寮迄鐵道ヲ敷設シ「ディーゼル」機關車ニ依リ之ヲ牽引シ煖子寮ニハ鑛石積込用棧橋ヲ設ケ同所ヨリ船積シテ佐賀關へ直送ス煖子寮積込所ハ冬季波浪高ク積込ニ障多キ爲基隆市濱町迄鐵道ヲ延長スベク計畫中ナリ

瑞芳鑛山ニテモ從來ハ坑内ヨリ搬出セラレシ鑛石ハ搬送又ハ手押ニ依リ坑口附近ノ所屬搗鑛所ニ運搬セシモ九分九番坑坑口ニ選鑛製鍊所ヲ新設セシニヨリ之ガ爲九分八番坑、同九番坑間及大竿林七番坑ト九分九番坑間及煖子寮ニ夫々「インクライン」ヲ施設シ九分系統ノ製鍊原鑛搬出ノ爲九分六番坑、同八番坑間ニ八百米ノ鐵索ヲ架設セリ

(ロ) 石 炭 山

坑外運搬ハ機關車、エンドレス、索道、臺車等ニ依レルモ大部分ハ本島特有ノ交通機關タル手押臺車ニ依ル、蒸汽機關車ヲ併用セルハ基隆二坑々口ヨリ四脚亭驛貯炭場間(距離2.2軒)萬里二坑々口ヨリ鐵索起點貯炭場間(距離1.6軒)、海山炭礦第一坑ニテ山元選炭場ヨリ中央停車場間(距離3軒)瑞芳一坑々口ヨリ同驛貯炭場間ノ四箇所ナリ瑞芳三坑ニテハ水平坑並坑口坑外貯炭場間ヲ蓄電池機關車ニヨリ「ガソリン」機關車ヲ併用セリ、「エンドレス」ヲ用フルハ石底一坑、善桐坑驛貯炭場間ノ一箇所ノミナリ索道ノ小規模ノモノハ諸所ニ使用サレツ、アルモ大規模ナルモノハ萬里二坑々外ヨリ基隆牛稠港貯炭場迄約10軒ノ單線式索道ノミナリ、本年中新設セラレタルモノナシ

(ハ) 石 油 山

出礦坑鑛山ニテハ原油ハ鐵管線ニ依リ山元ヨリ自然流送ニテ苗栗製油所ニ送ラレ揮發油ハ山元ニテ「ドラム」罐詰トシテ手押臺車ニテ苗栗製油所ニ輸送セラル
錦水鑛山ニテハ揮發油ハ2吋及3吋鐵管ニヨリ苗栗製油所又ハ公司寮油槽所ニ送油シ島内消費ニ充テ餘剩分ハ公司寮ヨリ内地ニ移出ス乾性瓦斯ハ鑛場燃料又ハ「カーボンブラック」採取所ニ配分ノ外4吋鐵管線ニヨリ一ツハ苗栗製油所經由出礦坑鑛山ノ燃料ニ補給シ途中苗栗街内製糖會社、煉瓦工場、一般家庭用燃料ニ供セリ「カーボンブラック」ハ採取所ヨリ手押臺車ニヨリ造橋驛ニ送リ鐵道、船便ニヨリ内地ニ移出ス

本年中新設セルモノナシ

第一表 本年度ニ新設セシモノ次表ノ如シ

鑛 山 名	種 別	樣 式	キ ロ ワ ッ ト (括弧内ハ臺數)	臺數計	備 考
金 瓜 石 鑛 山	架空索道	プライベート式	55.98 (1)	1	増設 金鑛運搬用
同	エンドレス		112.00 (1)	1	新設 金銅鑛運搬用
同	電動捲揚機	橫軸複式	37.32 (1)	3	増設 本山露頭一本山粗選鑛場インクライン
同	同	同	55.24 (1)		同 同
同	同	單式	55.24 (1)		同 本山四坑坑外インクライン
同	ディーゼル機關車		127.00 (3)	4	新設 水南洞一煖子寮間
同	同		22.39 (1)		同 同

鐵山名	種別	様式	キロワット (括弧内ハ臺數)	臺數計	備考
瑞芳鐵山	架空索道	單線式	22.39 (1)	1	新設製鍊原礦運搬用
	電動捲揚機	單副式	7.26 (1)	1	増設鐵子寮インクライン用

第二表 年末現在設備状況次ノ如シ

種別	臺數			當該設備ヲ有 スル鐵山數	備考
	35kw 未満	35kw 以上 50kw 未満	50kw 以上		
金 屬 山					
架空索道装置	1	2	—	3	2
エンドレス	—	—	1	1	1
捲揚機	8	2	3	13	2
ディーゼル機関車	1	—	3	4	1
石 炭 山					
架空索道装置	—	—	1	1	1
捲揚機	1	2	—	3	3
電車(蓄電池式)	3	—	—	3	1
ガソリン機関車	2	—	—	2	1
蒸気機関車	8	—	—	8	4
エンドレス	—	1	—	1	1
石 油 山					
架空索道装置	2	—	—	2	2
捲揚機	1	—	—	1	1
送油鐵管線	14,447	—	—	—	1 { 徑 2 吋 { 苗栗—出礦坑間
同	11,978	—	—	—	1 { 徑 2 吋 { 苗栗—錦水間
瓦斯鐵管線	31,467	—	—	—	1 { 徑 4 吋 { 錦水—新竹間
同	12,028	—	—	—	1 { 徑 4 吋 { 錦水—苗栗間
同	2,329	—	—	—	1 { 徑 3 吋 { 錦水—老田寮間
同	5,760	—	—	—	1 { 徑 6 吋 { 錦水鐵山ガソリンプラント カーボンプラント
同	1,497	—	—	—	1 { 徑 8 吋錦水鐵山第十四號 第二ガソリンプラント

(六) 排水設備

(イ) 金 屬 山

各鐵山共ニ水準以上ヲ稼行セルヲ以テ坑内ニ於ケル排水ハ自然排水ニ依ル即チ主

要坑道ニ夫々排水溝ヲ設ケ、坑内水ノ一部ハ之ニヨリ坑外ニ流出シ殘部ハ採掘跡ニ沿ヒテ下底ニ落下シ最下低坑ヨリ坑外ニ排水セラル但シ掘下部ニテハ唧筒ニヨリ排水スル箇所アリ

(ロ) 石 炭 山

水準下稼行、並ニ採掘區域ノ擴大ニ伴ヒ排水設備ハ逐年改善セラレ新增設セルモノ多シ

第一表 本年度ニ於テ新設又ハ増設セルモノ次ノ如シ

鐵山名	様式	キロワット (括弧内ハ臺數)	臺數計	備考
石 炭 山				
瑞芳一坑	タービン	14.92 (1)	3	坑内排水用 増設
同	三聯成	3.73 (2)		同 同
基隆二坑	タービン	14.92 (1)	1	同 同
基隆三坑	同	11.19 (1)	3	同 同
同	同	5.595 (2)		同 同
十五份永豐炭礦	同	7.46 (1)	2	同 新設
同	同	29.86 (1)		同 同
和興炭礦	西島式	11.19 (1)	1	同 同
聯興炭礦	エバーンス	7.46 (1)	1	同 同
内湖炭礦	同	7.46 (1)	1	同 同
樹林炭礦	スペシャル	7.46 (1)	1	同 同
萬里二坑	タービン	14.92 (2)	4	同 増設
同	スリスローグ	3.73 (2)		同 同
賀田炭礦	タービン	11.19 (1)	1	同 新設
潭豐炭礦(松山一坑)	同	29.86 (1)	3	同 同
同	同	5.50 (2)		同 同
木山三坑	エバーンス	11.92 (1)	1	同 同
魚行炭礦	タービン	3.00 (3)	4	同 同
同	同	4.00 (1)		同 同
武丹坑礦業所	西島式	14.93 (1)	1	同 同
東和新針坑	タービン	14.92 (1)	1	同 同
大溪炭礦	エバーンス	11.19 (1)	2	同 増設
同	スペシャル	7.46 (1)		同 同

第二表 年末現在管内設備状況次ノ如シ(石炭山、金属山ノミ)

型式	臺 數			計	當該設備ヲ有 スル鑛山數	備 考
	35kw未満	35kw以上 100kw未満	100kw以上			
タービン	130	15	—	145	32	總鑛山數 55
スリスロー	11	—	—	11	6	電 動 160
ニューアーン	1	—	—	1	1	蒸 汽 動 83
エバーンス	57	3	—	60	26	
スペシャル	20	—	—	20	7	
ウォレントン	3	—	—	3	2	
フューガル	1	—	—	1	1	
西島式	7	—	—	7	2	
本川式	2	—	—	2	1	

(七) 通 氣 設 備

(イ) 金 属 山

主トシテ自然通氣ニ依リ鑿岩機運轉動力用ノ壓縮空氣ヲ以テ之ヲ補助セリ、尙金瓜石鑛山ニテハ本山五坑ニ坑内扇風機ヲ同ジク樹梅坑ニ坑外扇風機ヲ設置シ本山系統各坑通氣ノ圓滑ヲ計レリ

(ロ) 石 炭 山

主トシテ自然通氣ニ依ルモ坑内ノ發展ニ伴ヒ次第ニ扇風機ヲ設置セルモノ多クナレリ

第一表 本年度ニ於ケル新設又ハ増設セルモノ次ノ如シ

鑛 山 名	標 式	キロワット (括弧内ハ臺數)	一分間排氣量 (立方尺)	臺 數	備 考	
基 隆 二 坑	シロツコ型	3.73 (1)	140	} 3	耐爆型	増 設
同	プロベラ型	1.865(2)	42		同	同
瑞 芳 一 坑	シロツコ型	3.70 (2)	140		} 3	同
同	同	1.85 (1)	100	同		同
賀 田 炭 鑛	同	11.19 (1)	278	1	同	新 設
源豊炭鑛(松山一坑)	プロベラ型	0.746(1)	33	1	同	同
益興炭鑛(社後新一坑)	シロツコ型	37.32 (1)	5,000	} 2	同	増 設
同 (同)	同	2.239(1)	300		同	同
同 (北港一坑)	同	36.75 (1)	850		1	同

鑛 山 名	標 式	キロワット (括弧内ハ臺數)	一分間排氣量 (立方尺)	臺 數	備 考	
魚 行 炭 鑛	シロツコ型	0.746(1)	50	} 2	爆耐型	新 設
興 南 炭 鑛	同	0.746(1)	50		同	同
共 榮 炭 鑛	昭 和 式	1.000(1)	100		同	同
同	同	0.500(2)	50		同	同
東 和 炭 鑛	シロツコ型	3.720(1)	140	1	同	同
華 南 炭 鑛	昭 和 式	0.746(3)	750	3	同	同
金 包 里 炭 鑛	シロツコ型	1.490(1)	200	1	同	同

第二表 年末現在設備状況次ノ如シ

種 別	臺 數				計	當該設備ヲ有 スル鑛山數	備 考
	10kw未満	10kw以上 35kw未満	35kw以上 100kw未満	100kw以上			
坑外主要扇風機	4	3	6	1	14	13	總鑛山數 26
坑内 同	5	6	1	—	12	8	
坑内補助扇風機	31	1	1	—	33	11	
計	40	10	8	1	59	—	

(八) 坑 内 照 明

主要炭鑛ニ於テハ坑内機械座及捲立等主要箇所ニハ 20「ワット」乃至40「ワット」電球ヲ取付ケ局部照明ニ供シツ、アルモ大部分ハ未ダ電燈ノ施設ヲ有セズ揮發油安全燈ハ大部分本田式ノモノニシテ各坑共二箇以上ヲ備ヘ付ケ可燃性瓦斯檢定用トシテ使用セラル

電氣安全燈ハ主要炭鑛ノ一部ニ使用スルモノニシテ其ノ數モ甚ダ少ク非常用トシテ準備シ居ルニ過ギズ

坑夫携帯ノ照明具ハ自家製ノ乾式蓄電池ヲ組立テ之ニ充電セシモノヲ使用シツ、アリ、可燃性瓦斯噴出無キ炭鑛ニテハ「アセチレン」燈ヲ使用ス

(九) 選 鑛

(イ) 金 瓜 石 鑛 山

本鑛山ノ鑛石ハ金銀鑛ト合金銅鑛ノ二種ニ大別シテ處理セラル

(1) 本山系統竝ニ長仁系統ノ金鑛ハ本年新設セラレシ本山粗選鑛場長仁粗選鑛場ニテ夫々粗選セラレ精鑛、片及廢石ニ選別セラル、精鑛ハ佐賀關製鍊所ニ直

送シ片及ハ青化製錬ノ原礦トシテ水南洞ノ新設製錬所ニ送ラル

(2) 含金銀銅礦ハ第一選礦場及水南洞新設選礦場ニ集メラレ手選礦、比重選礦並浮游選礦ニヨリ精礦ヲ選別シ佐賀關製錬所へ輸送ス

(ロ) 瑞芳鑛山

坑内採鑛場ニテ上鑛ト並鑛(中鑛ヲ含ム)ヲ手選スルノミナリシガ本年ヨリ選鑛製錬所ヲ新設シ並鑛(中鑛ヲ除ク)ヲ處理シ得ルニ至レリ

第一表 本年度ニ於テ新設又ハ増設セシモノ次ノ如シ

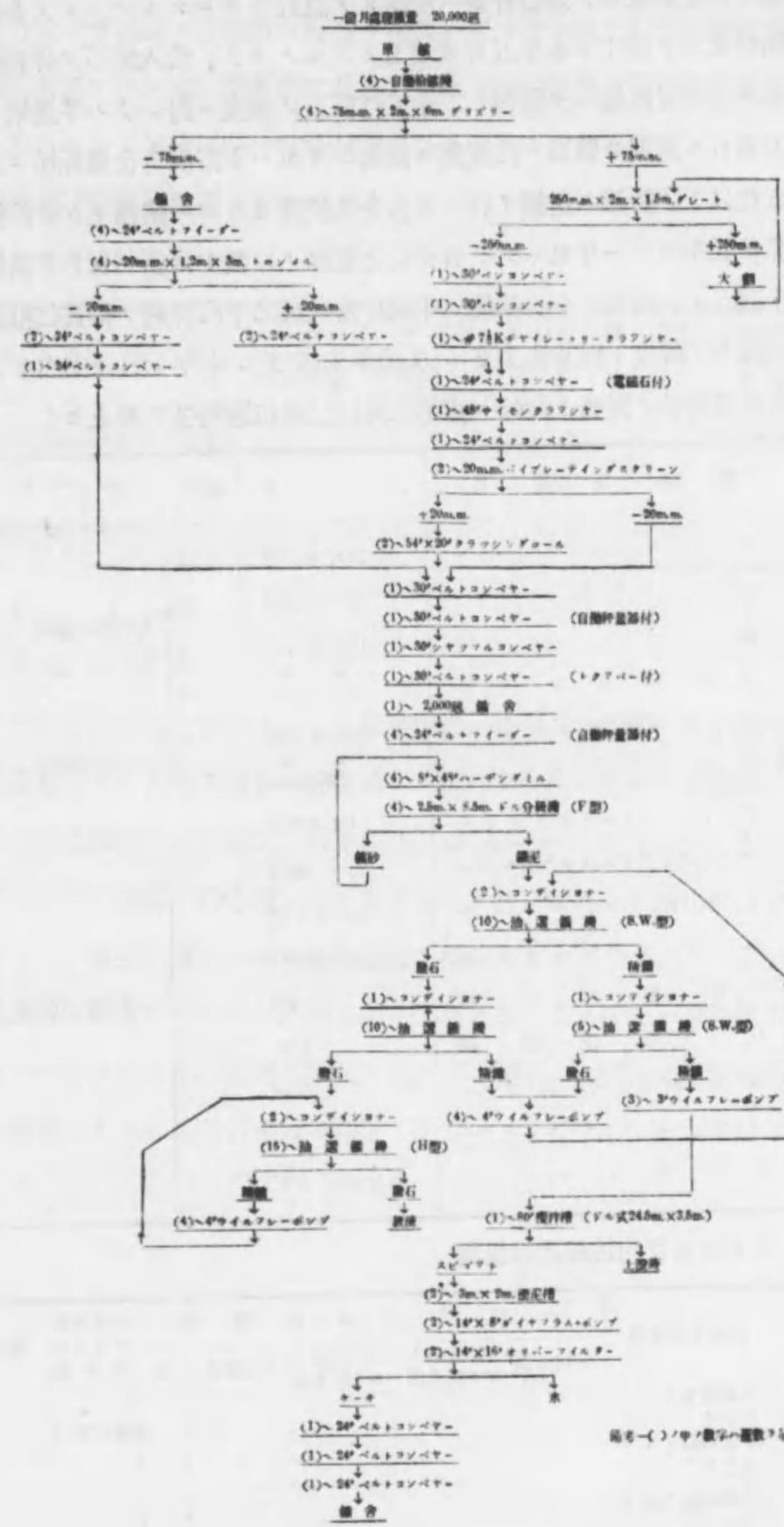
(イ) 金瓜石鑛山

(1) 水南洞選鑛場

水南洞新選鑛場ハ昭和八年末起工シ本年六月其ノ第一期工事ヲ竣工セリ、操業方法ハ選鑛系統圖ニ示ス如ク全泥法ヲ採用シ受入鑛石ヲ碎鑛並ニ磨鑛シ全部百「メツシュ」以下ノ微粉トシ浮游選鑛ニカケ共ノ精鑛ヲ濃泥脫水ス、一ヶ月ノ取扱鑛量二萬噸ニシテ約三千噸ノ精鑛ヲ得

尙本工事ヲ一期トシ更ニ其ノ能力ヲ三倍ナラシムル様第二期工事ヲ目下進行中ナリ

金瓜石鑛山水南洞選鑛場選鑛系統圖



(2) 本山及長仁粗選鑛場

水南洞ノ青化製鍊所ノ新設計畫ニ附隨シテ設計セラレシモノニシテ本山粗選鑛場ハ前年末ヨリ起工シ本年五月末竣工セシモノナリ、受入鑛石ヲ碎鑛機ニテ碎鑛シテ二十五耗篩ニテ粒別シ二十五耗以上ノ塊鑛ニ對シテハ手選鑛ヲ行ヒ精鑛片及廢石ニ選別シ精鑛ハ佐賀關ニ直送シ片及ハ水南洞青化製鍊場ニ送ラル、二十五耗以下ノ粉鑛ハ選鑛ヲ行ハズ含金品位高キモノハ精鑛トシテ佐賀關ニ直送シ品位低キモノハ片及トシテ自由山青化製鍊ノ原鑛トス、一ヶ月取扱鑛量ハ一萬八千噸ニシテ成品トシテ精鑛二千噸片及一萬二千八百噸ヲ得長仁粗選鑛場モ略ボ同様ナル規模ト操業法ヲ有シ先前年末起工シ本年七月末完成セシモノナリ、尙粗選鑛場ノ運轉ト同時ニ舊第三長仁三坑粗選鑛場ヲ廢止セリ

鑛山名	機械裝置名	大	サ	臺數	備	考
金瓜石鑛山	ブレイクラフシャ-	24吋	×15吋	2	}	本山粗選鑛場 新設
同	同	36吋	×28吋	2		
同	同	10吋	×7吋	1		
同	25耗トロンメル	1.21	×3.03	8		
同	ブレイクラフシャ-	24吋	×15吋	3	}	長仁粗選鑛場 新設
同	25耗トロンメル	1.21	×3.03	6		
同	ヂヤイレートリークフラフシャ-	14吋	×53吋	1	}	水南洞粗選鑛場 新設
同	サイモンズディスクフラフシャ-	48吋		1		
同	クラフシングロール	54吋	×20吋	2		
同	ハーディングボールミル	8呎	×48吋	4		
同	R, W 型浮選機	14呎		25		
同	H, F 型浮選機	10呎		15		
同	ドールシツクナー	80呎		1		
同	オリバーフィルター	14呎	×16呎	2		
同	ターボプロワー	毎分4萬立方呎		2		

第二表 年末現在管内機械選鑛場調

選鑛場	選別主要機種	一日平均取扱鑛量				當該設備ヲ有スル鑛山數	備考
		50噸未満	50噸以上 200噸未満	200噸以上 500噸未満	500噸以上		
浮游選鑛ヲナサザルモノ	金銀鑛ヲ主トスルモノ 空銀精鑛ヲ主トスルモノ	-	-	1	1	2鑛山數	1
浮游選鑛ヲナスモノ	金銀精鑛ヲ主トスルモノ	-	-	-	1	1	-

(十) 選 炭

三分目乃至一寸目篩ニテ塊粉ニ篩分ケ塊炭ハ總ベテ手選シ粉炭ハ機械選炭ニカケ或ハ桶流式水選ヲナス本年中石底二坑々外菁桐坑驛貯炭場ニ機械選炭設備一式ノ施設工事ニ着手セルト年末瑞芳一坑機械選炭場ノ燒失セル外特記スベキモノナシ

本年中機械選炭設備ノ新設ヲナセルモノナシ

年末現在管内機械選炭場調

選炭場種類	一日平均取扱鑛量				當該設備ヲ有スル鑛山數	備考
	200噸未満	200噸以上 500噸未満	500噸以上 1,000噸未満	1,000噸以上		
水洗及空氣選炭設備ヲ有セザルモノ	-	-	-	-	-	-
水洗設備ヲ有スルモノ	-	3	-	-	3	3
空氣選炭設備ヲ有スルモノ	-	-	-	-	-	-

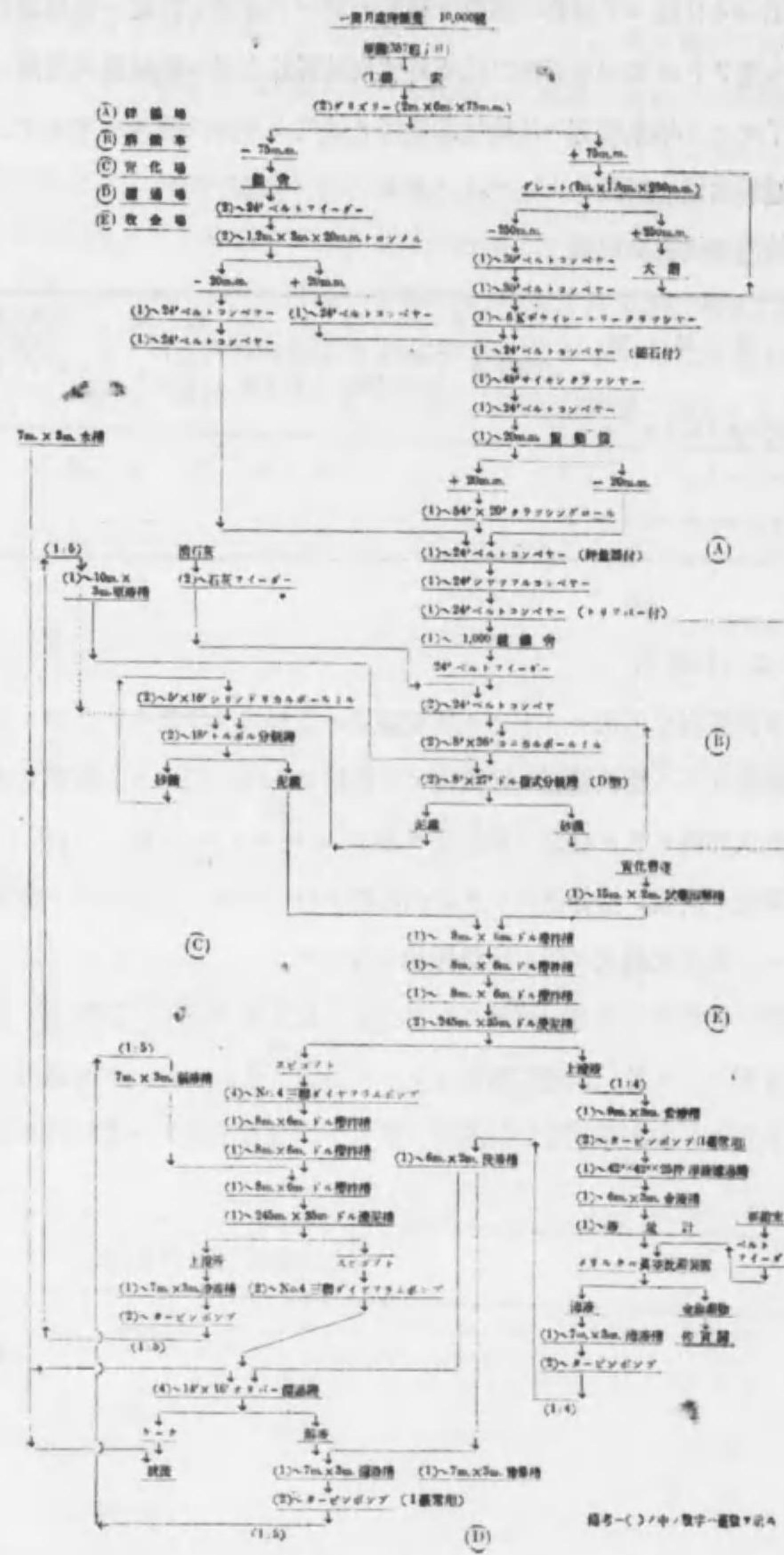
(十一) 製 鍊

(イ) 金瓜石鑛山

從來ハ砂泥鑛別青化法ニヨリシモ新製鍊場ハ全泥式ヲ採用セリ、即チ本山並ニ長仁粗選鑛場ヨリノ受入鑛石ハ碎鑛機ニテ粗碎シ「ロール」ニヨリ細碎シ全部二十耗以下ニ乾式碎鑛シタル後之ニ青化液ヲ混ジ「ボールミル」ヲ以テ二百「メツシュ」八十五%程度ニ磨鑛シ攪伴槽ニヨリ青化處理ヲ行フ斯クシテ抽出セル金液ハ「メクルクロー」真空沈澱法ニ附シ金銀瀝物ヲ採取セリ

本製鍊所ノ能力ハ一ヶ月一萬噸ニシテ工事ノ起工並ニ竣工ハ選鑛場ト其ノ期ヲ一ニシテ將來ハ一ヶ月三萬噸迄擴張セシムル計畫ナリ、而シテ本製鍊所ノ竣工ニ伴ヒ従前使用セシ砂泥鑛別青化製鍊所(能力一ヶ月五千噸)ハ本年四月限り之ヲ廢止セリ

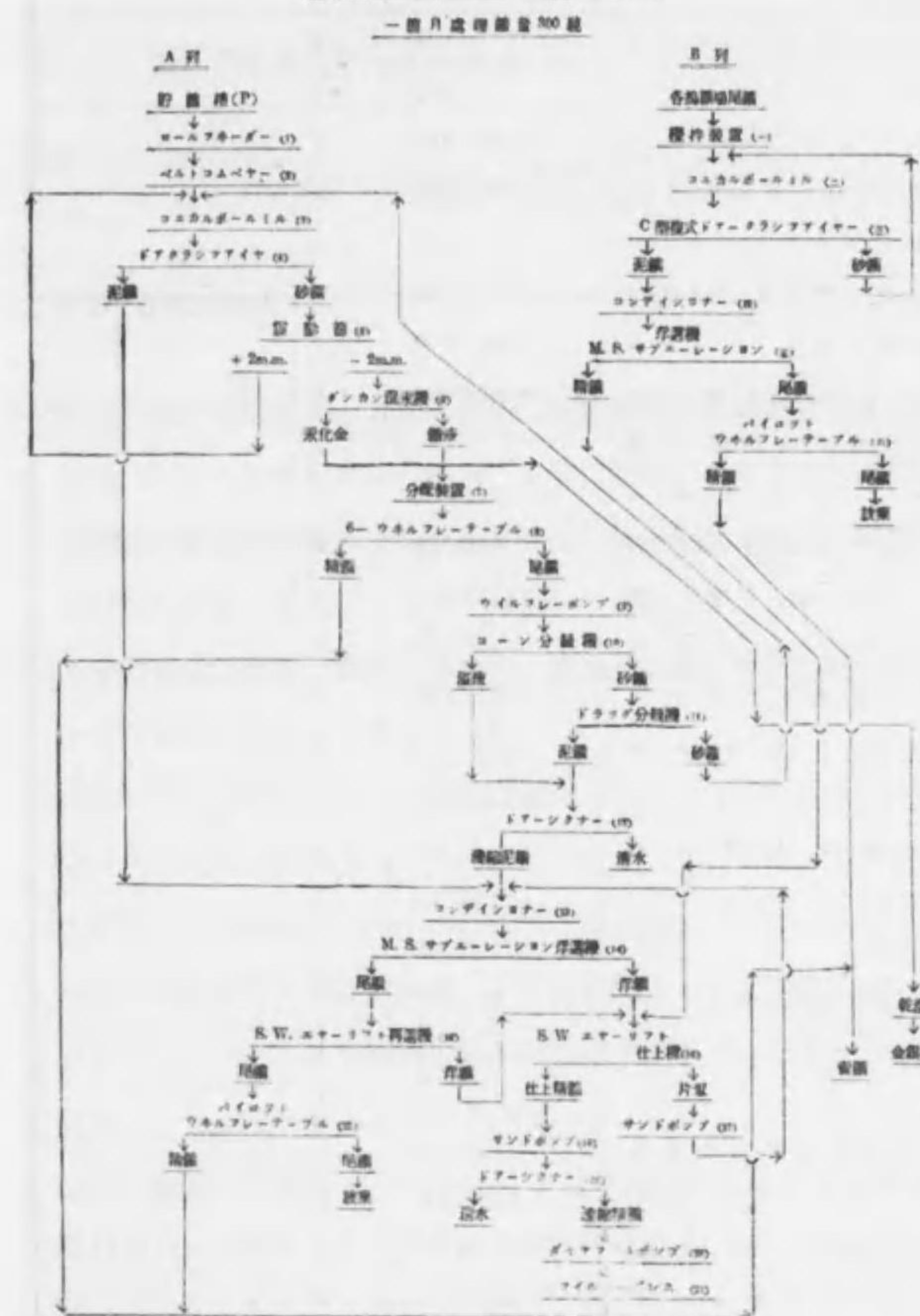
金瓜石礦山劣化製錬系統圖



(ロ) 瑞芳礦山

本礦山ノ鑛石ハ之ヲ三種ニ大別シテ製錬セラル上鑛(品位萬分ノ一以上)ハ上鑛製錬所ニテ碎鑛機ニヨリ粗碎セラレ水銀ヲ添加シツ、藥研ニカケ磨鑛セラル磨鑛セラレシモノハ金槽ニテ水選陶汰セラレ採取セラレシ「アマルガム」ニヨリ粗金ヲ得鑛尾ハ集積セラレ第二回製金ノ元鑛トナル中鑛(品位十萬分ノ一ヨリ萬分ノ一)ハ各坑々口附近ノ搗鑛場ニ於テ處理セラレ、搗鑛場ハ十二ヶ所ニ設置セラレ二封度乃至四百五十封度五本立柱二臺乃至十臺ヲ有ス、而シテ中鑛々尾ハ新製鑛場ノ

瑞芳礦山造鑛製錬系統圖



原鑛トシテ處理セラレ、並鑛(品位十萬分ノ一以下)ハ從來搗鑛場ノ閑散ナル時期ニノミ處理セラレツ、アリシモ之等多量ノ鑛石ヲ有利ニ稼行センガ爲本年初頭選鑛製錬場ノ新設ヲ計畫シ十二月本工事ヲ完成セリ其ノ能力ハ一ヶ月約八千吨ニシテ操業法ハ左表ニ示ス如シ

(ハ) 硫 黄 山

本島ノ硫黄山ハ全部小規模稼行ノミニシテ製錬法ハ「レットルト」式ヲ採用ス、蒸溜釜ハ鑄鐵製ニテ徑2尺深サ1尺ナリ此ノ釜五箇ヲ一列トシ、カハル設備ノモノ1基乃至3基ヲ有スルヲ普通トス

第一表 本年中新增設並ニ變更セルモノ次ノ如シ

鑛山名	機械装置名	大 小	臺數	備 考
金瓜石鑛山	二小耗トロンメル	4呎6吋×12呎4吋	2	水南洞製錬場 新設
同	ヂヤイレートリークラフシヤ	6k	1	
同	サイモンストラフシヤ	49吋	1	
同	クラフシングロール	54吋×20吋	1	
同	ハーディングボールミル	8呎×39吋	2	
同	シリンドリカルボールミル	6呎×12吋	2	
同	ドールクラフシフアイヤ	18呎	2	
同	ドールクラフシフアイヤ	8呎×27呎	2	
同	オリバーフィルター	140呎×16呎	4	
同	メリルクロー沈澱設備		1	
同	ドールシフクナー	24.5×3.5	3	
同	ドール攪拌槽	8米×6米	6	
同	空気壓縮機	毎分650立方呎	3	
瑞芳鑛山	五小耗トロンメル	1.83×0.9	1	
同	ブレーキクラフシヤ	38吋×23吋	1	
同	二小耗トロンメル	2.45×1.06	1	
同	ドールウオツシヤ	1.82×6.65	1	
同	ドールシフクナー	徑6米	1	
同	同	徑7.6	1	
同	同	徑9米	1	
同	サイモンディスククラフシヤ	徑60吋	1	
同	コニカルボールミル	2.12×0.9	1	
同	同	1.83×0.4	1	
同	ドールクラフシフアイヤ	1.83×6.6	1	
同	同	1.37×4.97	1	
同	ダシカン混攪機	徑1.53	1	
同	ウィルフレーターブル	4.82×1.83	2	

鑛山名	機械装置名	大 小	臺數	備 考
瑞芳鑛山	コーンクラフシフアイヤ	2米	1	
同	ドラッククラフシフアイヤ	3.61	1	
同	M. S. 浮 游 機		2	
同	S. W. 浮 游 機	長サ 7.5	1	
同	同 浮 游 機	長サ 3.15	1	
同	壓 搾 油 過 機		1	
同	ターボブロー	毎分93立方米	1	
同	同	毎分4.2立方米	1	

第二表 年末現在管内製錬場調

種 別	一 日 平 均 取 扱 鑛 量				備 考
	20噸未満	20噸以上 100噸未満	100噸以上 300噸未満	300噸以上	
金 銀	13	1	1	1	16

(十二) 製 油

本島ニ於ケル製油所ハ日本石油株式会社所屬ノ苗栗製油所ノミナリ同製油所ニテハ原油 60 疋ヲ處理シ得ル様蒸溜、洗滌、製罐、荷造其他ノ附屬設備ヲ施シ其ノ後錦水鑛山ノ揮發油増産ニヨリコレガ受入レ調合装置ヲ増設シ製油ノ完全ヲ期セリ
出礦坑原油並ニ錦水天然揮發油ハ何レモ送油鐵管ニヨリテ受入レシ原油ハ蒸溜ニヨリテ揮發油、燈油、輕油、機械油、重油及石蠟ニ分別精製シ天然揮發油ハ原油蒸溜々出揮發油ニ調合シテ製品トス

(十三) 「カーボンブラック」採取設備

錦水天然瓦斯ノ利用方法ノ一法トシテ昭和六年六月ヨリ工ヲ起シ同年十月ヨリ操業ヲ開始ス、採取法ハ「チャンネル」式ヲ採用ス
同法ハ燃燒室内ノ瓦斯燃焼器ニテ天然瓦斯ヲ不完全燃焼セシメ之ニ依リ生ズル「カーボンブラック」ヲ燃焼器上部ニ動搖セル「チャンネル」鐵ノ表面ニ附着セシメテ採取ス、ソノ採取能力ハ一日 136 疋ナリ
昭和七年更ニ同能力ノ「プラント」2 基ヲ増設ス、現在常時 2 基ヲ運轉シ日産 270 疋封度内外ヲ産出シツ、アリ、本採取所ノ製品ハ「ゴム」用、「インキ」用ノ2種ニシテ、輸入品ニ比シ遜色ナク市場ニテ好評ヲ博セリ

(十四) 鑛害除去設備

金瓜石、瑞芳兩鑛山共ニ海岸ニ近接シ坑水及選鑛排水ハ鑛山用地ヲ流レ直チニ海ニ注グヲ以テ鑛害除去設備トシテ特記スベキモノナシ

(十五) 電力購入及發電所

石炭山、石油山ニ於テハ自家燃料ヲ有スル爲汽罐又ハ瓦斯發動機ヲ以テ動力ヲ得ツツアルモ近時石炭山ニテハ逐年電化セラレ電力購賣量ヲ増加シツツアリ、電力ノ購入先ハ主トツテ臺灣電力株式會社ニシテ新竹州下ノ鑛山ニテハ一部臺灣電燈株式會社ニ之ヲ仰グ

第一表 電力ヲ新購入シ又ハ増加購入セシ鑛山次ノ如シ

鑛山名	州名	購入高 (一ヶ年K.W.H)	供給者名	契約價格	備考
金 屬 山					
金瓜石鑛山	臺北	30,474,431	臺灣電力株式會社	—	増加購入
同	同	602	自家發電	—	—
瑞芳鑛山	同	2,318,413	臺灣電力株式會社	—	増加購入
石 炭 山					
基隆三坑	臺北	1,920,711	臺灣電力株式會社	—	増加購入
源豐炭礦(松山一坑)	同	76,996	同	3.2	新購入
賀田炭礦	同	5,402	同	3.3	同
武丹坑鑛業所	同	52,099	同	4.9	増加購入
文山炭礦	同	54,176	同	5.0	同
大坪炭礦	同	180,000	同	3.3	新購入
華南炭礦	同	251,421	同	—	同
東和新坑	同	2,884,511	同	—	増加購入
瑞芳一坑	同	1,982,247	同	—	同
瑞芳三坑	同	206,918	同	—	新購入
石底二坑	同	56,760	同	4.1	増加購入
深澳一坑	同	13,982	同	4.5	新購入
永和炭礦	同	237,180	同	3.5	増加購入
東和炭礦	同	157,298	同	3.0	同
鹿寮新一坑	同	18,096	同	4.3	新購入
柿豐炭礦	同	751,296	同	3.0	増加購入
十五份永豐炭礦	同		同		

鑛山名	州名	購入高 (一ヶ年K.W.H)	供給者名	契約價格	備考
瑪鋏炭礦	臺北	132,630	臺灣電力株式會社	4.1	新購入
山子脚炭礦	同	152,540	同	4.3	増加購入
金包里炭礦	同	27,773	同	5.7	新購入
和興炭礦	同	95,000	同	3.1	同
德興松山炭礦	同	3,572	同	3.7	同
海山一坑	新竹	437,501	同	3.1	増加購入
石 油 山					
中和鑛山	臺北	2,740	臺灣電力株式會社	4.0	新購入
出瑞坑鑛山	新竹	129,000	自家發電	—	増加
錦水鑛山	同	871,120	臺灣電燈株式會社	—	増加購入
寶山鑛山	同	488,013	同	3.0	同
竹東油業所	同	67,862	同	5.0	同
同	同	102,598	自家發電	—	—
湖口油業出張所	同	267,882	臺灣電力株式會社	5.5	新購入
通霄鑛山	同	231,382	同	5.0	同
牛肉崎鑛山	臺南	382,360	同	3.7	増加購入
六重溪鑛山	同	357,000	同	3.0	新購入
凍子脚油業出張所	同	126,014	同	3.3	同
甲仙鑛山	高雄	446,630	同	3.0	増加購入
苗栗製油所	新竹	7,500	臺灣電燈株式會社	4.2	同

第二表 ナシ

(十六) 汽罐、汽機、蒸氣「タービン」、石油發動機

動力トシテ電力ノ使用漸増ノ傾向アレド石炭山、石油山ノ如キ自家燃料ヲ有スル鑛山ニテハ尙各種熱機關ヲ使用スルモノ多シ

鑛山名	州名	種名	方 式	キロワット (平均)	臺 數	備 考
石 炭 山						
魚行炭礦	臺北	汽罐	豎 型	0.41	1	捲揚機用
大昌炭礦	同	同	ランカシヤー	1.25	1	同
木山二坑	同	同	同	1.62	1	同
木山三坑	同	同	コールニツシュ	0.74	1	同

鐵山名	州名	種名	方 式	キロワット (予力)	臺 數	備 考
武丹坑炭礦	臺北	汽 機	コールニツシユ	0.74	1	捲揚機用
双溪炭礦	同	同	ランカシヤ	2.32	1	同
修記炭礦	同	同	同	1.34	1	同
參和炭礦	同	同	同	1.61	1	同
寶樹炭礦	同	同	ランカシヤ	1.11	1	同
逢記炭礦	新竹	同	豎 型	0.83	1	同
昭和炭礦	同	同	コールニツシユ	1.11	1	同
大溪鐵業所	同	同	ランカシヤ	1.39	1	同
石 油 山						
竹東油業所	新竹	汽 機	多管還烟式	2.79	5	預 製 用
同	同	同	ロコモチーブ型	2.79	4	同
同	同	同	多管還烟式	1.87	2	同
同	同	汽 機	アイデアル 複 吊 式	223.90	1	同
同	同	同	アヂヤツクス式	22.39	2	同
同	同	瓦 斯 發 動 機	橫置四吊式	298.60	1	同
同	同	同	橫置單吊式	93.20	1	同
湖口油業出張所	同	汽 機	多管還烟式	2.97	1	同
凍子脚油業出張所	同	デイズル エンヂン	S Z Z	49.26	1	同
中和鐵山	臺北	汽 機	多管還烟式	2.79	1	同
同	同	同	同	2.79	2	同
同	同	汽 機	アヂヤツクス式	22.00	1	同
同	同	同	橫置單吊式	11.00	1	同
同	同	同	同	16.00	1	同
同	同	同	同	150.00	1	同
六重溪鐵山	臺南	ガソリン エンヂン	T V 大 型	67.14	1	同

三 新ニ事業ニ着手シ鐵タル山次ノ如シ

鐵區番號	鐵山名	鐵種	位 置	鐵業人 (鐵業代理人)	着手セ ル月
424	調和炭礦	石 炭	臺北州基隆郡瑞芳庄深澳	基隆炭礦株式會社	一 月
736	逢記炭礦	同	新竹州桃園郡龜山庄塔寮坑	純國興 (陳華合)	
746	堵南炭礦	同	臺北州七星郡汐止街保長坑 基隆郡七堵庄五堵	蘇清洪外三 (川口乙助)	一 月
1,803	武丹炭礦	同	臺北州基隆郡双溪庄平林	林 開 郡	一 月

鐵區番號	鐵山名	鐵種	位 置	鐵業人 (鐵業代理人)	着手セ ル月
2,026	三和炭礦	石 炭	臺北州文山郡石碇庄石碇 同 同 員潭子坑	黃水樹外三	一 月
2,725	陳興化砂金所	砂 金	臺北州基隆郡瑞芳庄龍潭堵三瓜子	陳 興 化	一 月
2,790	大榮炭礦	石 炭	臺北州海山郡營歌庄龜子寮潭底坡內坑	楊水棟外一	一 月
2,797	炭 鐵 山 洞	同	花蓮港廳玉里支廳カシバナ社	臺灣鐵業株式會社	一 月
2,809	泰源炭礦	石 炭	臺北州基隆郡七堵庄草叢	王 山 猪	二 月
2,820	タフキリ溪砂金所 採取	砂 金	花蓮港廳海支廳タフキリ溪	阿部善助外二	二 月
2,824	通霄鐵山	石 油	新竹州苗栗郡通霄庄內湖湖頭	日本石油株式會社 (上野幸作)	二 月
563	六重溪鐵山	同	臺南州新營郡白河庄六重溪	同	三 月
940	勝源炭礦	石 炭	臺北州基隆郡七堵庄友納 臺北州七星郡汐止街北港	株式會社致和洋行	三 月
2,543	展勝炭礦 水山一二三	同	新竹州竹東郡蕃地シバジ一竹東庄上坪	詹 昭 河	三 月
457	同	同	臺北州基隆郡大竿林外五 基隆郡七堵庄馬陵坑營歌石	基隆炭礦株式會社	四 月
607	益芳炭礦	同	新竹州桃園郡龜山庄塔寮坑	王 天 造	四 月
487	賀田炭礦	同	臺北州七星郡內湖庄舊南港	株式會社 賀田組	五 月
2,801	德豐炭礦	同	臺北州海山郡營歌庄潭底坡內坑	張清瑛外一	五 月
950	臺基炭礦	同	基隆市田寮港外二	王 清 獻	六 月
2,834	中和鐵山	石 油	臺北州海山郡中和庄中坑牛埔鹿寮 南勢角橫寮	日本石油株式會社 (上野幸作)	六 月
445	共榮炭礦	石 炭	臺北州海山郡營歌庄大湖營歌阿南坑	成豐炭礦株式會社	七 月
2,580	同	同	臺北州基隆郡平溪庄十分寮石底	臺灣產業株式會社 (李清彩)	七 月
2,848	東澳鐵山洞	同	臺北州臺南郡蕃地東澳	伊賀崎基助 外一	九 月
143	石 磨 坑	石 炭	臺北州基隆郡七堵庄馬陵坑營歌石八堵	基隆炭礦株式會社	十 一 月
314	泉記炭礦	同	臺北州基隆郡七堵庄馬陵坑	李 根 泉	十 一 月
2,854	九層林油業所	石 油	玉井庄九層林 臺南州新化郡南化庄中坑 左鎮庄內庄子	臺灣鐵業株式會社 (佐藤壽喜)	十 一 月
752	大昌炭礦	石 炭	臺北州基隆郡七堵庄友納馬陵坑 七星郡汐止街北港四壁港	基隆炭礦株式會社	十 二 月
2,689	村瀨炭礦	同	基隆市深澳坑八斗子	村瀨近市 外二	十 二 月
2,727	新大鐵業所	同	新竹州新竹郡蕃地馬武營	簡 德 發 外三	十 二 月

四 新ニ重要鐵山ニ列シタル鐵山

(1) 修記炭礦

鐵第一三五一號 鐵業人 赤司鐵業株式會社

鐵業代理人 蘇 清 洪

位 置 臺北州七星郡汐止街鄉長厝
基隆郡七堵庄友納、五堵

(4) 交通運搬ノ便否

縱貫鐵道五堵驛ノ北方約二・七軒ニ位置シ交通便利ニシテ五堵驛迄ノ運炭ニハ自家用ノ輕便軌道ヲ敷設セリ

(ロ) 沿革

昭和二年斜坑ヲ開坑シ今日ニ及ベリ年末ニ於ケル本卸延長ハハ八百八十米、左右ニ稼行片磐四條宛ヲ有シ本年ノ出炭量ハ二萬八千五百噸ニ達セリ

(ハ) 地質及鑛床

中部石炭系ニ屬シ砂岩及頁岩ノ互層ヨリ成ル稼行炭層ハ二枚介在シ上層ハ炭厚一尺二寸本層(下層)ハ二尺ニシテ走向北七十五度乃至八十度東傾斜二十五度南ナリ炭質ハ牙物ニシテ比較的良好ナル上本鑛區内ニテハ炭層ノ變化モ亦少ナシ

(ニ) 概況

本坑ニテ稼行セルハ本層(下層)炭ノミニテ斜坑ヲ以テ開坑シ年末本卸延長ハ八百八十米稼行片磐ハ右部七片、八片、九片、十片、左部六片、七片、八片、九片ノ八條ヲ有ス採炭方法ハ片磐保存炭柱ヲ殘シ肩部ヲ前進式昇拂ニテ手掘採炭ヲナセリ切羽運搬ハ「スラ」片磐ハ手押、本卸ハ「コース」捲ニ依リ坑外運搬ハ全部手押臺車ニ依ル運搬排水用ノ動力ハ全部蒸氣力ヲ利用ス、石炭ハ三井物産、明比商店、近江商事、中臺商事等ノ石炭商ノ手ヲ經テバンカー炭、製糖用炭ニ供給セララル

(2) 双溪炭礦

鑛第九二五號 鑛業人 赤司鑛業株式會社

位置 臺北州七星郡士林街双溪
基隆部萬里庄頂萬里加投

(イ) 交通運搬ノ便否

淡水線士林驛ノ東北方十一軒ノ地點ニアリ炭脚、士林間ヲ通ズル舊道ノ沿線ニアリテ比較的交通便ナリ、運炭ニハ輕便軌道ヲ敷設シ士林驛迄搬出シ鐵道ニヨリ臺北驛ヲ經テ北送或ハ南送シツ、アリ

(ロ) 沿革

本鑛區ハ明治四十二年一月ノ許可ニカ、リ大正七年稼行ニ着手シ大正十五年迄稼業セルモ其後一時休止セリ、然ルニ昭和八年炭況稍稼業ニ有利トナリシ爲同年二月新ニ水平坑ヲ開坑シ昭和九年下期ヨリ採炭シ本年ハ出炭二萬二千噸ニ達セリ

(ハ) 地質及鑛床

本鑛區内ノ地質ハ中部夾炭層發達シ砂岩及頁岩ノ互層ヨリ成リ鑛區附近ニハ火成岩隨所ニ噴出シ多大ノ影響ヲ蒙レリ、鑛區ノ稍中央ニ斷層アリテ右部ハ大正年間ニ斜坑ニヨリ殆ド採掘シ盡シ現在ハ左部ヲ稼行セリ、火山活動ノ餘波ヲ受ケ炭層狀態ニ變動多キモ平均ノ走向北八十度東傾斜十二度北ナリ、炭層ハ稼行ニ耐エ得ルモノ三枚介在シ其ノ炭厚上層一尺八寸本層三尺下層二尺五寸各層ノ距離上層本層間約四十米本層下層間約三十米ナリ、炭質ハ非粘結性ニシテ比較的良好ナリ

(ニ) 概況

現水平坑(本坑)ノ開坑ハ昭和八年二月ニシテ年末ノ延長ハ五百九十米、四箇所ニ坑道ヲ分岐シテ採炭セリ、尙本坑ヨリ二十五米ノ高位ニ水平坑(二坑)ヲ開鑿セリ二坑ハ一部ニテ採炭セルモ主トシテ通氣上ノ目的ニテ開坑セシモノナリ、現ニ採掘セル炭層ハ本坑ノ一部ニテ下層ヲ採掘セルモ主トシテ本層炭ノミナリ、採炭方法ハ殘柱式ト長壁式ヲ併用シ二桁迄ハ炭柱ヲ殘シ肩部ヲ總拂ニテ手掘採炭ヲナセリ、切羽運搬ハ竹製「スラ」ニヨリ水平坑道ハ手押ニヨル、選炭ハ挾雜物少ナキ爲單ニ塊粉ニ篩別スルノミナリ、坑外モ亦人力ニテ手押臺車ニヨリ機械施設トシテハ掘進用ノ壓氣機、鑿岩機ヲ有スルニ過ギズ、石炭ハ殆ド三井物産ノ手ヲ經テバンカー用製糖用トシテ賣炭セララル

(3) 興南炭礦

鑛第一一二號 鑛業人 日東鑛業株式會社

鑛業代理人 黃慶泉

位置 臺北州七星郡內湖庄四分子後山

(イ) 交通運搬ノ便否

南港驛ヲ去ル南方四・八軒海拔百五十米後山溪ノ右岸ニ位置シ隣鑛區華南炭礦專用軌道ニ接續シ交通至便ナリ

(ロ) 沿革

本鑛區ハ明治三十年七月ノ許可ニ係リ以來鑛業人數名ヲ經テ大正九年六月現鑛業人は譲受ケ稍多量ノ出炭アリ、其後水平坑ニヨリ水準以上ノ採掘ヲ殆ド完了セリ而シテ昭和四年水準以下ノ採炭ヲ目的トシテ斜坑開鑿ニ着手セシモ炭界ノ不況ニ災セラレ一時中止セシ事アリ、更ニ昭和八年八月ヨリ炭況好轉セシヲ期トシテ前記斜坑ヲ改修掘進シ年末ニ於ケル本卸延長ハ三百七十七米ニ及ベリ

(ハ) 地質及鑛床

地質ハ第三紀中部夾炭層ニシテ砂岩、頁岩ノ互層ヨリナリ頁岩最モヨク發達ス、此間ニ上下二層ヲ介在スルモ南北ニ走レル脊斜軸ノ影響ニヨリ西部ハ傾斜六十度東部ハ十五度ニシテ厚サソレゾレ一尺五寸及二尺六寸アリ炭質ハ矽物ニシテ比較的良好ナリ

(ニ) 概況

現在第一坑第二坑ノ二坑口アリ、第一坑ハ斜坑ヲ以テ二片及三片ヲ稼行ス、第二坑ハ水平坑ニシテ二百三十米ニテ着炭シソレヨリ堅層ニ沿ヒ百四十米掘進シ同所ヨリクロスカットヲ開鑿シ脊斜軸ノ東方膨大部ヲ主トシテ採掘ス、採炭法ハ總拂法ニシテ炭柱ヲ殘サズ明年一月ヨリ電氣設備ヲナシポンプ及小型扇風機ヲ使用スル豫定ナリ従業人員百四十名ニシテ月二千二百噸ノ出炭アリ、三井物産、臺灣産業ノ手ヲ經テ製糖會社及バンカー用ニ供給セリ

(4) 田尾炭礦

鑛第一〇七七號 鑛業人 展南拓殖株式會社

位置 新竹州竹南郡南庄田尾

(イ) 交通運搬ノ便否

臺灣八景ト稱セララル、名勝地獅頭山ノ南方ニ在リ縱貫線竹南驛ヨリ東南方二十三杆、稍々鐵道沿線ヨリ遠距離ニアルモ自動車道路開拓セラレ輕便軌道ノ便モアリ交通運輸共ニ比較の便利ナリ

(ロ) 沿革

本鑛區ノ許可ハ相當古ク明治四十五年ニシテ設定以來小規模ニ水平坑ニヨリ稼行セラレシニ過ギズ、其後數代ノ鑛業人ヲ經テ大正七年現鑛業人ニ至リ稍々多量ニ産炭シツハアルモ尙水準以上ヲ數多ノ水平坑ニヨリ稼行中ナリ

(ハ) 地質及鑛床

本鑛區附近ノ地質ハ第三紀中部夾炭層發達シ賦存炭層ハ五枚介在スレド稼行ニ耐エウルモノハ上層及本層ノ二層ニシテ其ノ炭厚兩層共ニ二尺内外ナリ走向北七十二度西傾斜十五度東ナリ炭質ハ非粘結炭ニシテ比較的良好ニシテ汽罐用燃料炭ニ適ス

(ニ) 概況

多數ノ水平坑ヲ開坑シ各坑毎ニ請負人ニヨリ稼行セララル、各坑共採炭法ハ同型式ニシテ坑道三十米乃至二十米毎ニ井街道ヲトリ肩部十米ニ上添街道ヲ更ニ六米肩部ニ二柱街道ヲトリソレヨリ上部ヲ總拂ニテ手掘採炭ヲナス、切羽運搬ハ竹製「スラ」ニヨリ水平坑ハ手押、坑外運搬モ竹南驛迄手押軌道ニヨリ總テ人力ヲ用ヒ機械施設ナシ、石炭ハ竹南驛ヨリ南送シ中南部ノ煉瓦會社、製糖會社ニ供給セリ

五 事業ヲ擴張シ又ハ擴張ニ著手シタル鑛山

鑛山名	州廳名	記	事
金瓜石鑛山	臺北	從來ノ砂泥鑛別ニ依ルモノヲ全泥法ニ改メ處理鑛量一ヶ月六千五百噸ヲ一萬噸ニ増加セシ水南洞青化製鍊所及月取扱鑛量二萬噸ノ金銀銅鑛選鑛場ヲ完成シ引續キ第二期工事(製鍊二萬噸、選鑛四萬噸)ニ移レリ、尙之ニ伴ヒ本山及長仁兩組鑛場ヲ竣工セリ運搬施設中本年中ニ完成セシモノハ本山六坑七坑間及本山五坑六坑間ノ兩堅坑、本山六坑々口ヨリ水南洞新製鍊選鑛場ニ至ル「エンドレス」本山四坑々外ヨリ同ジク水南洞ニ連絡スル架空索道本山露頭ト本山四坑ヲ連絡スル「インクライン」、本山四坑々外ニ二箇所ノ「インクライン」、並ニ水南洞煖子寮間ノ鑛石運搬用ノ鐵道工事ヲ完成セリ、尙本工事ハ更ニ延長セラレ基隆市濱町ニ至ルモノニシテ目下銳意進行中ナリ	
瑞芳鑛山	臺北	低品位鑛石處理ノ爲本年中能カ一ヶ月九千噸ノ選鑛製鍊場ヲ九分九番坑口ニ新設セリ、之ニ伴ヒ九分系統ノ原鑛搬出ノ爲九分六番坑同八番坑間ニ鐵索ヲ九分八番坑ト同九番坑間ニ「インクライン」ヲ大竿林系統原鑛搬出ノ爲大竿林七番坑ト九分九番坑間ニ「インクライン」ヲ又鑛石、材料運搬用トシテ煖子寮ニ「インクライン」ヲ設備セリ尙煖子寮ノ施設ヲ擴張セルモノ四箇所ニ及ベリ	
基隆二坑	臺北	右斜左五片奥ニ二十馬力電氣捲ヲスタービン唧筒二十馬力ノモノ一臺ヲ増設セリ	
基隆三坑	臺北	掘進能率増進ノ爲壓氣機一臺ト鑿岩機四臺ヲ増設シ坑内發展ニ應ジタービン唧筒二臺ト極部扇風機二臺ヲ増設セリ	
瑞芳一坑	臺北	新斜坑ノ開鑿ニ伴ヒ壓氣機一臺ト鑿岩機五臺ヲ増設シ坑内發展ノ爲タービン唧筒三臺ト極部扇風機三臺ヲ増設セリ	
萬里二坑 附屬坑	臺北	瑪鍊溪下底採掘ノ爲新ニ斜坑二坑ヲ開鑿セシ爲三十馬力及二十馬力電氣捲各一臺及タービン唧筒二臺ヲ新設セリ	
石底坑場	臺北	石底一坑ニテ右三片卸掘進ノ爲三十五馬力電氣捲ヲ右三片ニ石底二坑ニテハバウム式選炭設備一式ヲ夫々新增設セリ	

武丹炭礦	臺北	水準下稼行ノ爲新ニ斜坑ヲ開鑿之ガ爲コルニツシユ汽罐ト蒸汽捲一臺ヲ新設セリ
大和炭礦	臺北	新ニ斜坑ヲ開坑セシ爲汽罐ト蒸汽捲一臺ヲ新設セリ
修記炭礦	同	運搬能力増加ノ爲大型蒸汽捲ニ取換ヘ同時ニ汽罐一基ヲ増設セリ
益隆炭礦	同	新ニ斜坑ヲ開坑セシ爲二十馬力電氣捲ヲ新設セリ
八堵炭礦	同	從來ノ捲揚機ヲ大型蒸汽捲ニ交換シ運搬能力ヲ増加セリ
金包里炭礦	同	從來ノ十五馬力電氣捲ヲ三十馬力ニ交換シ運搬能力ヲ増加セリ
共榮炭礦	同	坑内斜坑開鑿ノ爲三十馬力電氣捲ヲ新設セリ
德豐炭礦	同	新ニ斜坑開鑿ノ爲四十馬力電氣捲ヲ新設セリ
昭和炭礦	新竹	新斜坑開鑿ノ爲汽罐一基ト蒸汽捲一臺ヲ新設セリ
逢記炭礦	同	新斜坑開鑿ノ爲汽罐一基ト蒸汽捲一臺ヲ新設セリ
竹東油業所	同	「ロ」式第五號井、「ロ」式第六號井開坑ノ爲汽罐十一基、汽機三臺、瓦斯發動機二臺ヲ増設、尙ガソリン採取工場ヲ建設中ナリ

六 事業ヲ縮少休止又ハ廢業シタル鑛山

甲 事業ヲ縮少セル鑛山

特記スベキモノナシ

乙 休業セル鑛山

本年中ニ休業セル鑛山次表ノ如シ

州	名	鑛區番號(鑛山名)	鑛種
臺	北	第五八五號(綿興炭礦)	石炭
同		第一〇三三號(深坑炭礦)	同
新	竹	第一五六八號(振發炭礦)	同
臺	北	第一七一號(白石脚坑)	同
花	蓮	第二五二八號	砂金
臺	北	第二五九二號	同

丙 廢業セル鑛山

州	鑛名	鑛區番號	鑛種	州	鑛名	鑛區番號	鑛種
臺	北	第一〇一號	石炭	臺	北	第一三五二號	石炭
同		第九三〇號	同	同		第一五四三號	同
同		第一二九六號	同	同		第二四六三號	同

5. 鑛 產 表 (1)

主要鑛山名	所 在 地	鑛 業 人	鑛 產 物 種 類	數 量	價 額
金瓜石鑛山	臺北州基隆郡瑞芳庄九分外三 雙溪庄武丹坑外二	臺灣鑛業株式會社	汰 鐵	232	20,127
			金 銀 鐵	104,384	3,995,854
			金 銀 鐵	65,085	2,350,178
			金銀雜物	11,121	623,118
瑞芳鑛山	基隆郡瑞芳庄九分外三 雙溪庄武丹坑外一	泰陽鑛業株式會社	金	1,131,862	3,494,040
			銀	329,212	21,542
石底坑場	基隆郡平溪庄石底 文山郡石碇庄松柏崎 瑞芳庄板洞外三	同	石 炭	179,417	1,110,483
瑞芳三坑	基隆郡雙溪庄武丹坑 平溪庄十分寮外一	基隆炭礦株式會社	同	116,760	1,000,159
北港口炭礦	七星郡汐止街叭噠港外四	周 錦 樹	同	108,239	528,923
基隆三坑	基隆市石碇港外三 瑞芳庄四脚亭外三 七堵庄暖々外三	基隆炭礦株式會社	同	106,676	877,289
			同	96,799	643,227
萬里二坑	同 萬里庄外萬里加投外一	同	同	96,799	643,227
瑞芳一坑	基隆市八斗子外一 同 瑞芳庄九分外五 基隆市大水窟外一	同	同	92,750	798,760
			同	73,787	635,965
基隆二坑	同 瑞芳庄四脚亭外三 基隆郡七堵庄暖々外三	同	同	73,787	635,965
十五份	文山郡深坑庄奧福外二	張 聰 明	同	64,286	318,429
益興炭礦	七星郡汐止街叭噠港外一 基隆郡七堵庄友船外一 三峽庄五寮外三	周 錦 樹	同	49,162	255,159
海山炭礦	新竹州海山郡善地金瓜坑 大溪郡大溪街三層外一	臺灣鑛業株式會社	同	48,785	206,800
興南炭礦	臺北州七星郡內湖庄四分子外一	日東鑛業株式會社	同	31,437	163,191
山子脚炭礦	海山郡鶯歌庄山子脚外四	持 木 茂	同	29,519	150,414
修記炭礦	七星郡汐止街德長后 基隆郡七堵庄友船外一	赤司鑛業株式會社	同	28,566	186,498
八堵炭礦	基隆郡七堵庄鶯歌石外一	中台商事株式會社	同	28,097	128,613
山本炭礦	海山郡三峽庄成福 土城庄大安寮	山 本 義 信	同	27,634	183,935
德興山炭礦	七星郡松山庄三銀里 內湖庄後山 文山郡深坑庄渡內坑	德興株式會社	同	27,345	201,316
松山炭礦 (第二坑第三坑)	七星郡松山庄五分埔外一 內湖庄後山外五	臺灣鑛業株式會社	同	25,338	86,378
益隆炭礦	基隆郡平溪庄十分寮	泰陽鑛業株式會社	同	24,261	132,571
大溪炭礦	新竹州大溪郡大溪街三層外一 善地金瓜坑	大溪炭礦株式會社	同	23,538	147,076

礦 產 表 (2)

主要礦山名	所 在 地	礦 業 人	礦 產 物 種 類	數 量	價 額
双溪炭礦	臺北市七星部士林庄双溪 基隆部萬里庄頂萬里加投	赤司礦業株式會社	石 炭	22,025	138,769
田尾炭礦	新竹州台南部南庄田尾	展南拓殖株式會社	同	20,712	168,909
三峽炭礦	臺北市海山部三峽庄五峯	林 岡 郡	同	19,411	91,411
順和炭礦	同 基隆部七堵庄七堵外一	林 氏 金 蘭	同	19,200	134,400
永和炭礦	同 文山部深坑庄內湖	蕭 炳 亮 外二	同	17,368	72,679
參和炭礦	同 海山部營歌庄大湖	賴 謝 氏 吟	同	16,590	104,259
內湖炭礦	同 七星部內湖庄新里族	臺灣礦業株式會社	同	15,574	67,673
瑪鍊炭礦	同 基隆部萬里庄中萬里加投	陳 明	同	15,534	101,748
文山炭礦	同 文山部新店庄青潭外一	駱 世 安 外二	同	14,992	63,893
暖々炭礦	同 基隆部七堵庄暖内	周 德 輝 外二	同	14,780	78,602
大昌炭礦	同 同部七堵庄瑪鍊坑	李 炎 海 外三	同	14,072	84,740
聯興炭礦	同 七星部松山庄五分埔 內湖庄後山外一	許 金 長	同	13,321	71,439
獅頭山炭礦	新竹州竹東部獅頭庄藤坪 台南部三灣庄石碇子外三	林 清 文	同	12,710	90,030
武丹坑礦業所	臺北市基隆部双溪庄武丹坑外二	後宮合名會社	同	12,602	85,179
基隆一坑	基隆市大水窟 同部瑞芳庄四脚亭外三 同 七堵庄暖々外三	基隆炭礦株式會社	同	12,425	68,146
東和炭礦	同 基隆部瑞芳庄鹽魚坑外一	廖 春 福 外三	同	11,848	67,142
金源興炭礦	同 海山部中和庄南勢角外一 土城庄清水坑外二	林 堂 煒 外一	同	11,604	65,730
大溪礦業所	新竹州大溪部善地員潭坑	楊 漢 龍	同	11,009	46,902
復記炭礦	臺北市七星部松山庄三張犁	復記產業合資會社	同	9,905	54,569
板橋炭礦	同 海山部中和庄南勢角 土城庄清水坑外一	臺灣コークス 株式會社	同	9,143	54,858
魚行炭礦	同 基隆部双溪庄魚行	義 和 商 行 外四	同	8,841	52,263
樹林炭礦	同 海山部營歌庄波內坑	楊 漢 龍	同	8,140	37,419
源登炭礦	同 七星部松山庄五分埔 內湖庄東新庄子	臺灣炭業株式會社	同	8,123	36,048
共榮炭礦	同 海山部營歌庄營歌外一	楊 漢 龍	同	8,099	52,699
六張犁炭礦	臺北市六張犁 同 七星部松山庄三張犁 同 文山部深坑庄城內坑外一 內湖庄後山	日東礦業株式會社 外一	同	8,031	44,402
大溪礦山	新竹州大溪部大溪街三層	楊 漢 龍	同	7,200	28,800
藻合炭礦	臺北市海山部土城庄頭外一	詹 玉 瓊 外一	同	7,026	35,131

礦 產 表 (3)

主要礦山名	所 在 地	礦 業 人	礦 產 物 種 類	數 量	價 額
成益炭礦	臺北市海山部營歌庄阿南坑	益 田 萬 太 郎	石 炭	6,647	34,090
海山二坑	同 海山部三峽庄白鶴外二	臺灣礦業株式會社	同	6,453	40,592
源和炭礦	同 基隆部瑞芳庄三瓜子 双溪庄石壁坑	同	同	5,907	29,535
嶺脚寮坑	同 同部平溪庄十分寮外一 文山部石碇庄松柏崎外	同	同	5,690	30,869
田尾坑	新竹州竹東部獅頭庄藤坪外一 台南部南庄田尾	基隆炭礦株式會社	同	5,658	24,519
成福炭礦	臺北市海山部三峽庄成福外一	陳 炳 俊	同	5,432	31,315
瑞三炭礦	同 基隆部双溪庄武丹坑外一	何 政	同	5,353	26,761
平溪炭礦	同 同 同庄分寮	辻本商事株式會社	同	4,413	21,777
華南炭礦	同 七星部內湖庄四分子	方 玉 埜	同	4,378	28,120
牛埔貫田炭礦	同 海山部中和庄中坑外二	株式會社 賀田組	同	4,234	19,049
東成炭礦	新竹州新竹部舊地馬武營	陳 旺 同	同	4,088	23,570
柯子崙炭礦	臺北市海山部中和庄中坑外一	何 承 興	同	4,057	23,887
四脚亭炭礦	同 基隆部七堵庄暖々 瑞芳庄四脚亭	張 貴 林	同	3,931	26,894
木山一、二、三坑	同 基隆部大竿林外五 同部七堵庄瑪鍊坑外一	基隆炭礦株式會社	同	3,774	31,015
深澳一坑	同 瑞芳庄能潭塔 市深澳坑	臺灣總督府交通局	同	3,491	24,576
金包里炭礦	同 基隆部萬里庄下萬里加投	中臺商事株式會社	同	2,288	22,468
外柑脚坑	同 同 双溪庄柑脚外一	船橋武雄	同	3,164	13,598
振昌炭礦	新竹州大溪部大州街新溪洲	合資會社振昌商行	同	3,125	12,501
出礦坑礦山	同 苗栗部公館庄出礦坑 大湖部獅潭庄桂竹林	日本石油株式會社	原油 トッペン 揮發油 天然揮發油 瓦斯	6,645 676 340 1,147,130	384,860 54,899 27,607 44,096
錦水礦山	同 苗栗部頭屋庄頭屋外四 台南部造橋庄赤崎子外一 同 三灣庄大坪林	日本石油株式會社	天然揮發油 瓦斯 プロペン 瓦斯	5,014 1,237,294 133 13,100,214	407,877 516,125 6,011 503,572
北投硫黃山	臺北市七星部北投庄北投	德記合名會社	硫 黃	277	18,884
死礦仔硫黃山	同 基隆部金山庄頂中殿	同	同	250	12,032
鑽仔坪硫黃山	同 同 萬里庄下萬里加投	同	同	213	14,511
	同 基隆部瑞芳庄能潭塔	廖 慈 外二	砂 金	6,717	15,372

6. 鑛 山

石 炭 山 災
礦 夫 死 傷 者

坑内 地表	種 別 事 由	回 數	死 亡						重	
			十五歲未満		二十歲未満		二十歲以上		十五歲未満	
			男	女	男	女	男	女	男	女
坑 内	落 弊	148	1	-	1	-	42	-	-	-
	瓦斯又ハ炭塵ノ爆發	9	-	-	-	17	-	-	-	
	捲揚堅坑 =於テ	捲揚超過	-	-	-	-	-	-	-	-
		鎖又ハ繩ノ切斷	-	-	-	-	-	-	-	-
	捲揚臺=因リ昇降中	1	-	-	-	2	-	-	-	
	自動車道 又ハ捲揚 車道=於 テ	鎖索ノ切斷	-	-	-	-	-	-	-	-
		坑車逸走又ハ脱線	19	-	-	1	6	-	-	-
	其 他	26	-	-	1	12	-	-	-	
	坑車(前項以外ノ)ノ爲	14	-	-	-	6	-	-	-	
	發 破 又ハ爆發藥ノ爲	16	-	-	-	4	-	-	-	
	瓦斯ノ中毒又ハ窒息	3	-	-	-	4	-	-	-	
	出 水 ノ 爲	1	-	-	-	-	-	-	-	
	器 械 ノ 爲	-	-	-	-	-	-	-	-	
	電 氣 ノ 爲	-	-	-	-	-	-	-	-	
	其 他	26	-	-	-	13	-	-	-	
計	263	1	-	3	-	106	-	-		
地 表	器 械 ノ 爲	7	-	-	-	-	-	-	-	
	汽 罐 破 裂 ノ 爲	1	-	-	-	2	-	-		
	爆 發 藥 ノ 爲	1	-	-	-	-	-	-		
	鐵 車 又ハ架索索道ノ爲	23	1	-	1	3	1	2		
	熱 灼 融 熔 物 ノ 爲	1	-	-	-	-	-	-		
	劇 物 ノ 爲	-	-	-	-	-	-	-		
	電 氣 ノ 爲	3	-	-	-	1	-	-		
其 他	22	-	-	1	5	-	-			
計	58	1	-	2	-	11	1	2		
合 計	321	2	-	5	-	117	1	2		

災 害 統 計

年 報 (石炭山) (昭和十年分)

傷		輕 傷						合 計							
二十歲未満		二十歲以上		十五歲未満		二十歲未満		二十歲以上		十五歲未満		二十歲未満		二十歲以上	
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
6	-	90	-	-	-	-	-	12	-	1	-	7	-	144	-
-	-	10	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	28	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	3	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	6	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	12	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	18	1
1	-	11	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	23	1
2	-	14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	20	-
-	-	15	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	22	-
-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	15	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	32	-
9	-	171	2	-	-	-	-	21	-	1	-	12	-	298	2
1	1	4	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	1	4	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	2	-
4	-	7	2	-	-	-	-	1	2	3	-	5	-	11	5
-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-
-	-	14	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	19	1
5	1	26	3	-	-	1	-	4	2	3	1	8	1	41	6
14	1	197	5	-	-	1	-	25	2	4	1	20	1	339	8

金屬山災
礦夫死傷者

坑内 地表	種別 事由	回數	死 亡						重	
			十五歲未滿		二十歲未滿		二十歲以上		十五歲未滿	
			男	女	男	女	男	女	男	女
坑内	落 磐	27	1	-	1	-	7	-	-	-
	瓦斯又ハ炭塵ノ爆發	-	-	-	-	-	-	-	-	
	捲揚堅坑 =於テ	捲揚超過	-	-	-	-	-	-	-	-
		鎖又ハ繩ノ切斷	-	-	-	-	-	-	-	-
		捲揚臺=因リ昇降中	-	-	-	-	-	-	-	-
	自動車道 又ハ捲揚 車道=於 テ	鎖 索ノ切斷	-	-	-	-	-	-	-	-
		坑車逃走又ハ脱線	-	-	-	-	-	-	-	-
	其 他	5	-	-	1	-	3	-	-	
	坑車(前項以外ノ)ノ爲	4	-	-	-	-	1	-	-	
	發破又ハ爆發藥ノ爲	9	-	-	-	-	4	-	-	
	瓦斯ノ中毒又ハ窒息	-	-	-	-	-	-	-	-	
出 水ノ爲	1	-	-	-	-	-	-	-		
器 械ノ爲	-	-	-	-	-	-	-	-		
電 氣ノ爲	-	-	-	-	-	-	-	-		
其 他	17	-	-	-	-	8	-	-		
計	£2	1	-	2	-	23	-	-		
地 表	器 械ノ爲	-	-	-	-	-	-	-	-	
	汽 罐 破 裂ノ爲	-	-	-	-	-	-	-	-	
	爆 發 藥ノ爲	-	-	-	-	-	-	-	-	
	鐵車又ハ架索道ノ爲	5	-	-	-	1	-	1	-	
	熱 灼 融 熔 物ノ爲	-	-	-	-	-	-	-	-	
	刺 物ノ爲	-	-	-	-	-	-	-	-	
電 氣ノ爲	2	-	-	-	1	-	-	-		
其 他	10	-	-	1	-	1	-	-		
計	17	-	-	1	-	3	-	1		
合 計	79	1	-	3	-	26	-	1		

害 統 計
年 報 (金屬山) (昭和十年分)

傷		輕 傷						合 計							
二十歲未滿		二十歲以上		十五歲未滿		二十歲未滿		二十歲以上		十五歲未滿		二十歲未滿		二十歲以上	
男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
2	-	18	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-	25	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4	-
1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	3	-
-	-	8	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	13	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16	-
3	-	37	-	-	-	-	-	1	-	1	-	5	-	61	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	2	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-
1	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	7	-
3	-	9	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4	-	12	-
6	-	46	-	-	-	-	-	1	-	2	-	9	-	73	-

昭和十年中ニ於ケル五名以上ノ死傷者ヲ生ジタルル災害

礦山名	災害發生月日	災害種別	死亡者數	重傷者數	輕傷者數	計
三峽炭礦	五月十四日	瓦斯爆發	4	2	—	6
魚行炭礦	六月二十九日	同	3	2	—	5
文山炭礦	六月二十六日	同	8	—	—	8
益興炭礦 (北港一坑)	九月六日	炭車ノ逸走	4	5	—	9
瑞芳一坑	九月十四日	同	2	3	1	6
計			21	12	1	34

礦山災害回數及死傷者數累年比較

年次	回數	死亡者數	負傷者數	計
昭和元年	341	122	367	489
同 二年	330	124	288	412
同 三年	340	103	317	420
同 四年	485	91	535	626
同 五年	567	88	531	619
同 六年	381	123	317	440
同 七年	298	65	262	327
同 八年	262	126	239	365
同 九年	274	143	234	377
同 十年	400	155	302	457

稼行鑛山調

種別	金	金銀	金銀銅・砂金	石炭	石油	硫黃
重要	—	1	1	21	3	—
準重要	—	—	—	31	—	—
普通	1	—	—	10	8	—
計	1	1	1	134	11	—

備考 石炭山中年産二萬噸以上ノモノヲ重要鑛山、五千噸以上二萬噸未満ノモノヲ準重要鑛山トシテ記入セリ

昭和十年樺太鑛業ノ趨勢 (樺太廳調査)

總 說

昭和十年中ニ於ケル樺太ノ鑛業主トシテ石炭鑛業ハ軍需工業ヲ始メ各種重工業其他一般産業殷盛ヲ背景トセル石炭需要ノ増加ニ伴ヒ依然好調裡ニ推移セリ、即チ昭和十年ニ於ケル出炭量ハ百五十一萬五千六百四十七噸ニ達シ前年ニ比シ約三十二萬噸即チ二十七%ノ増産ニシテ此ノ増産ハ前記諸産業ノ旺盛ニ基ク内地移出炭ノ増加及ビ島内各製紙「パルプ」工場用、鐵道用、船舶用等ノ需要増加ニ因ルモノナリ、就中内地移出炭量ハ約五十萬噸ニシテ前年ニ比シ約十六萬噸即チ四十七%ノ著シキ増加率ヲ示スニ至レリ

石炭低温乾溜事業ハ南樺太炭礦鐵道株式會社ニヨリ内幌炭礦ニ於テ昭和九年六月工場ノ建設ニ着手セラレ昭和十年三月末ヲ以テ工事ノ完成ヲ見年十萬噸ノ石炭處理能力ヲ有シ、樺太廳ノ獎勵補助金交付ノ下ニ昭和十年四月ヨリ操業ヲ開始セリ

油田調査ハ大正ノ末期ヨリ樺太廳ニ於テ施行セラレ幾多ノ有望地域ヲ發見セル處ナルモ更ニ樺太全島ニ亘リ詳細ナル調査ヲ行ヒ系統的ニ含油層ノ存在狀況ヲ知り又既調査區域ニ對シテモ新事實ノ發見ヲ爲シ以テ今後ニ於ケル石油試掘ノ資料タラシメントノ趣旨ノ下ニ昭和十年及昭和十一年ノ二年間ニ亘リ調査團ヲ組織シテ油田調査ヲ施行中ナリ

石油試掘ハ日本石油株式會社ニヨリ昭和四年七月本斗郡本斗町吐鯉保澤ニ一木ノ試掘井ヲ開鑿シタルヲ初メトシ昭和十年末迄ニ合計六本ノ試掘井ヲ掘鑿シタルモ不幸ニシテ未ダ成功ノ域ニ達セズ、更ニ昭和十年十一月本斗郡内幌村牛荷澤ニ於テ網式ニ依ル試掘井ヲ開鑿シ目下順調ニ掘進中ナリ、尙日本鑛業株式會社ハ野田郡亞牛ニ於テ輕便網式ニ依ル試掘井ヲ昭和九年八月ヨリ開鑿セルモ不幸失敗シ更ニ昭和十年八月同地ニ再ビ上總式試掘井ヲ開鑿シ目下順調ニ掘進中ナリ

昭和十年中ニ於ケル鑛業出願ハ試掘六百一件、採掘十三件、合計六百十四件ニシテ前年ニ比シ試掘ニ於テハ八十三件ノ減少ナルモ採掘ニ於テハ七件ノ増加ヲ示セリ、砂鑛出願ハ十二件ニシテ前年ニ比シ二件ノ減少ナリ

昭和十年末現在鑛區中、試掘鑛區數ハ二百八、其ノ面積一億五千二十三萬三千二百二十坪ニシテ前年末ニ比シ鑛區數ニ於テ十二、面積ニ於テ八百八萬八百四十二坪ノ何レ

モ減少ヲ示シ、探掘鑛區數ハ七十三、其ノ面積七千四百四十九萬二千三百五十五坪ニシテ前年來ニ比シ鑛區數ニ於テ二、面積ニ於テ二百五萬八百五十六坪ヲ増加セリ、砂鑛ハ鑛區數二十、面積九十五萬八千二百三十坪、延長十六里十九町三十五間ニシテ、前年末ニ比シ鑛區數ニ於テ五、面積ニ於テ十萬坪、延長ニ於テ七里二十三町五十五間ヲ減少セリ

昭和十年中ニ於ケル鑛產物ハ石炭及ビ石炭低溫乾溜製品ニシテ出炭量ハ前述ノ如ク百五十一萬五千六百四十七噸ナルモ其ノ内二萬九千五百六十五噸ハ低溫乾溜用原料炭トシテ使用セラレタルヲ以テ鑛產價額ハ總出炭量ヨリ低溫乾溜原料炭ヲ差引ケル百四十八萬六千八百八十二噸ニ對スル千三百三十二萬七千八百八十六圓九十錢及低溫乾溜製品ニ對スル九萬九千七百三圓九十七錢トノ合計千四百四十二萬七千五百九十圓八十七錢ニシテ前年ニ比シ二百三十萬八千四百二十四圓四十七錢ヲ増加セリ、而シテ年產一萬噸以上ノ出炭ヲ爲セル炭鑛十三ノ中前年ニ比シ減產ヲナセルハ三炭鑛ニシテ、其ノ數量約五萬四千噸ナリ、其ノ他ハ何レモ増產ヲ爲シ大平炭鑛ノ約十萬噸、塔路炭鑛ノ約七萬噸、川上炭鑛ノ約五萬噸等其ノ著シキモノナリ

1. 出 願

鑛種別出願件數累年比較表

年次	種別	試 掘				計	探 掘				計	砂鑛	合計
		石炭	石油	金屬	其他		石炭	石油	金屬	其他			
昭和六年		133	57	5	—	195	9	—	1	—	10	13	218
昭和七年		111	90	5	—	206	5	—	—	—	5	6	217
昭和八年		135	97	13	—	245	13	—	—	—	13	19	277
昭和九年		594	63	27	—	684	6	—	—	—	6	14	704
昭和十年		361	169	71	—	601	13	—	—	—	13	12	626

鑛種別出願件數對照表 (1)

年次	種別	試 掘			探 掘			砂 鑛		
		昭和九年	昭和十年	増減	昭和九年	昭和十年	増減	昭和九年	昭和十年	増減
石炭		594	361	△ 233	6	13	7	—	—	—
石油		64	169	105	—	—	—	—	—	—
金		1	12	11	—	—	—	—	—	—
金銀		4	17	13	—	—	—	—	—	—
金銀銅		10	16	6	—	—	—	—	—	—

種別出願件數對照表 (2)

年次	種別	試 掘			探 掘			砂 鑛		
		昭和九年	昭和十年	増減	昭和九年	昭和十年	増減	昭和九年	昭和十年	増減
金銀銅鐵		3	16	13	—	—	—	—	—	—
金銀銅亞鉛		1	—	△ 1	—	—	—	—	—	—
鐵		1	1	—	—	—	—	—	—	—
水銀		3	—	△ 3	—	—	—	—	—	—
金銀水銀		2	2	—	—	—	—	—	—	—
鐵滿俺		1	—	△ 1	—	—	—	—	—	—
金銀クローム鐵		—	—	—	—	—	—	—	—	—
金銀銅鐵滿俺		—	—	—	—	—	—	—	—	—
銅鐵水銀亞鉛		—	1	1	—	—	—	—	—	—
亞鉛		—	1	1	—	—	—	—	—	—
硫黃		—	1	1	—	—	—	—	—	—
硫磺		—	4	4	—	—	—	—	—	—
砂金		—	—	—	—	—	—	2	1	△ 1
砂金砂白金		—	—	—	—	—	—	1	—	△ 1
砂金砂水銀		—	—	—	—	—	—	1	6	5
砂水銀砂金砂鐵		—	—	—	—	—	—	10	—	△ 10
砂鐵		—	—	—	—	—	—	—	1	1
砂金砂重石イリジウム		—	—	—	—	—	—	—	3	3
砂金、砂鐵砂錫砂白金		—	—	—	—	—	—	—	1	1
砂白金		—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計		684	601	△ 83	6	13	7	14	12	△ 2

備考 金印ハ減

2. 鑛 區

鑛區砂鑛區數及面積並ニ延長累年比較表

年次	種別	試 掘		探 掘		砂 鑛	
		鑛區數	面積	鑛區數	面積	鑛區數	面積又ハ延長
昭和六年		216	143,183,356	58	62,114,626	8	778,800 ^坪 24 ^町 20 ^丁 25 ^間
昭和七年		223	151,765,986	62	64,518,127	8	778,800 ^坪 24 ^町 7 ^丁 30 ^間
昭和八年		227	161,899,449	60	65,418,809	12	1,058,230 ^坪 24 ^町 7 ^丁 30 ^間
昭和九年		220	158,314,062	71	72,441,459	12	1,058,230 ^坪 24 ^町 7 ^丁 30 ^間
昭和十年		208	150,232,220	73	74,492,315	11	958,730 ^坪 16 ^町 19 ^丁 35 ^間

鑛種別鑛區、砂鑛區比較表

年次	種別	鑛種											合計	
		石炭	石油	金銀洞	金銀洞硫化鐵	水銀	金	砂金	砂白金	砂水銀	砂鐵	砂白金		砂金
試掘	昭和九年	167	49	1	1	2	-	-	-	-	-	-	-	220
	昭和十年	163	41	1	-	2	1	-	-	-	-	-	-	208
	増減	△4	△8	-	△1	-	1	-	-	-	-	-	△12	
探掘	昭和九年	60	10	1	-	-	-	-	-	-	-	-	71	
	昭和十年	62	10	1	-	-	-	-	-	-	-	-	73	
	増減	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	
砂鑛	昭和九年	-	-	-	-	-	18	1	1	1	2	2	25	
	昭和十年	-	-	-	-	-	14	1	1	1	1	2	20	
	増減	-	-	-	-	-	△4	-	-	-	△1	-	△5	

備考 △印ハ減

昭和十年末現在鑛種別鑛區並ニ砂鑛區數面積及延長表

種別	試掘		探掘		砂鑛		延長
	鑛區數	面積	鑛區數	面積	鑛區數	面積	
石炭	163	112,489,660	62	65,152,717	-	-	里町
石油	41	35,734,759	10	8,784,632	-	-	
金	1	77,400	-	-	-	-	
金銀洞	1	366,841	1	554,966	-	-	
水銀	2	1,564,560	-	-	-	-	
金銀洞硫化鐵	-	-	-	-	-	-	
砂金	-	-	-	-	6	645,900	8 16.00.00
砂鐵	-	-	-	-	1	72,000	
砂金砂水銀	-	-	-	-	-	-	1 19.35
砂白金	-	-	-	-	1	90,000	
砂金砂白金	-	-	-	-	1	29,900	
砂金砂鐵	-	-	-	-	2	120,430	
計	208	150,233,220	73	74,492,315	11	958,230	9 16.19.35

3. 鑛産額

出炭量及價格並石炭需給關係年比較表

年次	種別	鑛産額		移入炭	移出炭
		數量	價額		
昭和六年		637,962	5,249,915.00	3,574	38,079

出炭量及價額並石炭需給關係年比較表

年次	種別	鑛産額		移入炭	移出炭
		數量	價額		
昭和七年		677,389	5,200,899.20	241	51,833
昭和八年		888,913	6,703,915.90	1,879	163,604
昭和九年		1,196,647	9,119,166.40	1,097	333,500
昭和十年		1,515,647	11,327,886.90	2,604	492,749

備考 出炭數量中ニハ低溫乾燥原料炭ヲ含ミ價額中ニハ低溫乾燥製品價額ヲ含マズ

低溫乾燥製品數量並價額表

製品	數量	價額	製品	數量	價額
コーライト	14,471	57,884.00	揮發油	135.053	13,640.35
ピツチ	60.1	901.50	クレオソート油	770.375	26,963.12
パラヒン	0.9	315.00	計	-	99,703.97

各炭鑛別出炭量對照表

炭鑛名	鑛種別	昭和九年	昭和十年	増減	炭鑛名	鑛種別	昭和九年	昭和十年	増減
大平探		370,603	478,263	107,760	北辰試		-	4,595	4,595
川上同		260,307	306,647	46,340	知内探		-	3,623	3,623
知取同		159,991	135,468	△24,523	野田同		1,448	2,866	1,418
内幌同		78,825	132,829	54,004	名好試		103	2,509	2,406
塔路同		18,456	90,000	71,544	千歳探		2,374	1,386	△988
大榮同		69,808	84,052	14,244	久良志試		1,567	377	△1,190
惠須取同		101,000	77,000	△24,000	幌岸探		4,732	320	△4,412
白浦同		46,494	69,382	22,888	内路同		143	273	130
鶴巢同		27,906	33,648	5,742	小田洲試		-	215	215
内川同		5,134	31,399	26,265	北泊帆探		260	90	△167
美田同		16,910	17,019	109	泊岸同		-	53	53
樫保同		22,104	16,434	△5,630	古丹岸試		-	22	22
東海同		6,927	11,112	4,185	落帆三上同		-	6	6
安別同		-	8,390	8,390	落帆同		-	3	3
珍内同		1,555	7,563	6,008	合計		1,196,647	1,515,647	319,000

備考 △印ハ減

4. 石炭需給關係

需給	昭和六年	昭和七年	昭和八年	昭和九年	昭和十年
島外移出	38,079	51,833	165,604	333,500	492,749
工場用	527,264	505,969	556,288	598,255	628,731
鐵道用	37,100	36,192	38,990	39,909	43,638
島内消費	22,586	20,977	24,202	36,439	69,927
船舶用	14,188	10,273	23,324	41,861	36,531
低溫乾燥用	—	—	—	—	29,565
其ノ他	23,425	43,961	85,430	105,241	153,704
計	634,663	617,372	728,234	821,705	962,096
移入炭	3,574	241	1,879	1,097	2,604
産出炭	637,962	677,389	888,913	1,196,647	1,515,647
計	641,536	677,630	890,792	1,197,744	1,518,251
年末貯炭量	32,246	40,671	34,625	77,164	140,570

5. 稼行炭礦概況

昭和十年中ニ於テ稼行セル炭礦ハ採掘二十二、試掘七ニシテ主要炭礦ノ概況左ノ如シ

大平炭礦 (樺太鐵業株式会社)

名好郡惠須取町ニ在リ、鑛區面積約三百六十萬坪ニシテ鑛業事務所ハ惠須取港ヲ距ル東北約十二軒ノ地點ニ位シ、此ノ間ニ輕便鐵道ヲ敷設シテ運輸ノ便ニ供ス、年出炭量約五十萬噸ニシテ本島隨一ノ炭礦ナリ

炭層ハ上部夾炭層群ニ屬シ、走向ハ北十度西ヨリ北十度東ノ間ニシテ、傾斜ハ南西又ハ北西ニ十度乃至二十度ナリ、主要炭層ハ厚サ一乃至八米ノモノ十一層アリ、現在ニ番層(一・四米)、三番層(三米)、四番層(一・七米)、七番層(五・八米)及八番層(二・三米)ノ各水準上ヲ稼行ス

採炭方法ハ徒來多ク柱房式ヲ採用セルモ漸次切羽ヲ集中シテ最壁式ニ改メ、採炭跡ハ無充填或ハ部分充填トシ、電氣「ドリル」、「セーキングコンベヤー」、截炭機等ヲ使用ス、通氣ハ大體ニ於テ自然通風ニ依ルト雖モ通氣助長及掘進、排煙用トシテ電氣扇風機ヲ備フ、坑内外ノ運搬ハ電氣捲揚機及馬匹ニ依ル

選炭場ハ東、南兩坑用ト西坑用トノ二アリ、後者ハ「パースクリーン」ニテ塊粉ニ分ツノミナルモ前者ハ塊粉ニ分テ爾後更ニ塊炭ノミヲ「ローラクラッシャー」ニ依リ

テ粉炭ト爲スノ裝置ヲ有ス

石炭ハ不粘結性又ハ弱粘結性ノ良質瀝青炭ニシテ固有ノ光澤ヲ有シ、發熱量高ク硫黃分少ク汽罐用及家庭用炭トシテ好適シ、王子製紙會社所屬惠須取、真岡及野田ノ各製紙「バルブ」工場用トシテ供給スル外、内地ニ於ケル同社工場ニモ移出シ尙一部ハ附近ノ家庭用炭トシテ販賣セラル

川上炭礦 (三井鑛山株式会社)

豊原郡川上村及榮濱郡落合町ニ跨リ鑛區面積約五百萬坪ニシテ鑛業事務所ハ樺太鐵道線豊原驛ヲ距ル三十二軒、川上線ノ終點川上炭山驛ノ西北約一軒ノ地ニアリ、中部封鎖炭田ノ南端ノ一部ニシテ一ヶ年ノ出炭量ハ約三十餘萬噸ナリ

炭層ハ下部夾炭層群ニ屬シ、走向略々南北、傾斜約四十五度西ニシテ主要炭層ハ一乃至二米ノモノ十四層アリ、現在本坑ニ於テ八番層(一・九米)、十四番上層(一・二米)及十四番下層(二・二米)ノ各水準以上ヲ採炭稼行ス

各炭層ヲ直角ニ貫ク延長一軒ニ達スル大鑿入坑道ヲ設ケ、各炭層ニ達着スル毎ニ其ノ走向ニ沿ヒテ主要坑道ヲ掘進シ、次イデ其ノ上部ニ平行セル中切坑道ヲ設ク、尙炭層主要坑道ニ平行シテ岩磐坑道ヲ掘進シ之ニ「セメント」被覆ヲ施シテ永久的ノ坑道トナス

採炭法ハ長壁式ニシテ「コールピツク」、壓氣「ドリル」、電氣「ドリル」及截炭機等ヲ使用シ、通氣ハ自然通風ナルモ通氣助長用又ハ局部通氣用トシテ電動局部扇風機ヲ備フ、坑内外ノ運搬ニハ架線式電車ヲ用ヒ炭車ハ鐵製二層容量ノモノヲ使用ス十時間一千噸ノ處理能力ヲ有スル乾式機械選炭場ヲ有スルモ未ダ水洗ヲ行ハズ

坑内外諸機械ノ原動力、電車運轉及點燈其他ノ電力供給ノ爲一千四十「キロワット」ノ自家用火力發電所ヲ設備ス

炭質ハ良質瀝青炭ニシテ色ハ漆黒、光澤ヲ有シ、概シテ不粘結性ニシテ灰分少ク發熱量大、所謂牙物トシテ歡迎セラル、汽罐用ニ供セラルル外家庭用トシテモ亦好適シ、樺太鐵道、豊原、大泊、落合ノ各製紙バルブ工場用及ビ家庭用トシテ販賣セラレ近時島外ニモ移出ス

知取炭礦 (樺太鐵業株式会社)

元泊郡知取町ニアリ、鑛區面積約百八十萬坪ニシテ鑛業事務所ハ樺太鐵道線知取驛

ヲ距ル東方約一・五軒ノ地點ニ位ス

炭層ハ東海岸上部夾炭層群ニ屬シ、走向北二十三度東、傾斜急ニシテ上部ニ於テハ西ニ、下部ニ於テハ東ニ約七十度ナリ、主要炭層ハ厚サ〇・六乃至三米ノモノ六層アリ、現在二番層（二米）、三番層（一・三米）及四番層（一・五米）ノ三層ヲ稼行シ年産約十五萬噸ナリ

水準以上ハ堅入坑道、水準以下ハ斜坑ニ依リ、何レモ炭層ニ直角ニ開坑シテ各層ニ達着シ、夫ヨリ炭層ノ走向ニ沿ヒテ主要坑道ヲ設ケ、其ノ上部ニ於テ之ト平行ニ中切坑道ヲ掘進ス

採炭方法ハ階段式長壁法ニシテ全ク手掘ノミニ依リ機械及爆藥ヲ使用セズ、坑道掘進ニ際シ壓氣「ドリル」、「コールピツク」ヲ使用ス、通氣ハ水準以上ニ於テハ自然通風ニ依ルモ、水準以下ノ稼行ニ對シテハ斜坑口ニ「シロツコ」式主要扇風機ヲ設置シテ機械通風ヲ行フ

運搬ハ坑内ニ蓄電池電車、斜坑ニ電氣捲揚機、坑外ニ架線式電車ヲ使用セリ、選炭設備トシテハ十時間五百噸ノ處理能力ヲ有スル乾式機械選炭場ノ外毎時二十噸處理能力ヲ有スル「バウム」式水洗機ヲ備ヘ夏期ニ於テノミ粉炭ノ水洗ヲ行フ

石炭ハ低度瀝青炭ニ屬シ、不粘結性ニシテ出炭ノ殆ンド全部ハ知取製紙工場用トシテ使用セラレ冬季間僅カニ市中家庭用トシテ販賣セラル、ニ過ギズ

惠須取炭礦（惠須取炭礦株式會社）

名好郡惠須取町アリ、鑛區面積約百七十六萬坪ニシテ鑛業事務所ハ西海岸天内川口ヲ廻ルコト約六軒ノ地點ニ位シ、此間輕便鐵道ヲ敷設シテ運輸ノ便ニ供ス

炭層ハ西海岸上部夾炭層群ニ屬シ厚サ一乃至十米ノモノ十餘層アリ、走向ハ殆ンド南北ニシテ東ニ七十度ノ急傾斜ヲ爲ス

現在主トシテ三尺層、四尺層、七尺層、二十四尺層及三十尺層ノ各水準以上ヲ稼行シ、年産約十萬噸ナリ、採炭方法ハ斜向長壁式ニ依リ採炭跡ニハ乾式全充填ヲ行フ從來動力設備ナカリシ爲全ク機械ヲ使用スル事ナカリシモ、昭和十年末六百「キロワット」ノ火力發電所ヲ完成シ順次機械化ヲ圖ルベク着々準備ヲ進メ、既ニ一部ニ壓氣「ドリル」ノ使用ヲ開始スルニ至リ、更ニ天内海岸ニ十時間四百噸ノ處理能力ヲ有スル水洗選炭場ヲ建設中ナリ

炭質ハ不粘結性ニシテ瀝青炭ニ屬シ汽罐用及家庭用燃料ニ適シ、出炭ノ大部分ハ天内海岸ヨリ内地ニ移出セララル

内幌炭礦（南樺太炭礦鐵道株式會社）

本斗郡内幌村及好仁村ニ跨ル面積約六百五十萬坪ノ鑛區ニシテ南部封鎖炭田ノ一部ヲ占メ、鑛業事務所ハ樺太鐵道西海岸線ノ終點本斗驛ノ南方約十四軒ヲ距ル内幌市街地ノ海岸ヨリ東方約二軒ノ地點ニアリ、炭礦山元ト本斗トノ十六軒間ニハ私營鐵道ヲ敷設シ運輸ノ便ニ供ス

炭層ハ西海岸上部夾炭層群ニ屬シ、鑛区内ヲ南北ニ縱走セル一向斜軸ヲ中心トシテ東西ニ〇・六乃至三・四米ノ炭層數枚ヲ介在シ、傾斜ハ平均七十度東又ハ西ナリ、現在斜坑ニヨリ本層上炭（三米）及同下炭（三米）ヲ稼行中ニシテ昭和十年ニハ約十三萬噸ヲ産出セリ

採炭方法ハ斜向長壁式ニ依リ、採掘跡ハ乾式全充填ヲ行フモノトシ、壓氣「ドリル」、電氣「ドリル」及「コールピツク」等ヲ使用ス、通氣ハ斜坑口ニ電動多翼離心式主要扇風機ヲ備付ケ機械通風ヲ行フ、運搬ハ坑内片磐坑道ニ於テハ電動「メーンアンドテール」捲揚機ヲ、斜坑ニハ蒸氣捲揚機ヲ、斜坑口ヨリ選炭場迄ニハ「エンドレス」運搬機ヲ使用ス

選炭設備トシテハ十時間五百噸ノ處理能力ヲ有スル乾式機械選炭場ヲ有シ、諸種ノ原動力用トシテハ五百五十「キロワット」ノ火力發電所ヲ設置シ、尙北内幌港ニ内地移出炭積出用棧橋ヲ建設セリ

炭質ハ低度瀝青炭ニ屬スルモ汽罐用、家庭用並ニ低溫乾溜用ニ適シ、産出炭ハ附屬低溫乾溜工場用及鐵道用トシテ使用セラル、外、附近町村及豊原町方面ニ家庭用トシテ販賣シ、一部ヲ内地ニ移出ス

内幌低溫乾溜工場ハ年十萬噸ノ内幌炭ヲ處理シ、半成炭（コーライト）五萬噸、揮發油九百噸、重油七千五百噸、「ピツチコークス」五千噸及「バラビン」六百噸ヲ産出スル計劃ノ下ニ昭和九年六月起工、同十年三月大部分ノ工事ヲ完成シ、同年四月ヨリ操業ヲ開始シ昭和十年中ハ着手早々ナリシ爲僅カニ約三萬噸ノ原料炭ヲ處理セルニ過ギザリシモ昭和十一年中ニハ全工場ノ設備完成ト共ニ全能力ヲ發揮スルニ至ルベシ

大 榮 炭 礦 (株太炭業株式会社)

泊居郡名寄村ニ在リ、鑛區面積約百七十萬坪ニシテ鑛業事務所ハ西海岸泊居市街ヲ
ノ距ル東北約十九軒ノ地點ニ位シ、此ノ間十六軒ノ輕便鐵道及三軒ノ架空索道ニ依リ
テ運輸ノ便ニ供ス、年出炭量約八萬噸ナリ

炭層ハ厚サ約一・五米ノモノ一枚ニシテ下部夾炭層群ニ屬シ、走向ハ東西又ハ南北
傾斜ハ緩ニシテ南北又ハ東西ニ十度内外ナリ

採炭方法ハ柱房式ニ依リ電氣「ドリル」ヲ使用ス、開坑以來水準上ノミヲ稼行セル
モ昭和十年ヨリハ坑内斜坑ニ依リ水準下ノ採炭ヲ開始セリ、通氣ハ水平坑道ニ對シ
テハ自然通風、斜坑ニ對シテハ電動主要扇風機ニ依ル機械通風ヲ行ヒ掘進用トシテ
電動局部扇風機ヲ備フ

坑内ヨリ選炭場迄ノ運搬ハ手押、自轉捲及電動捲揚機ニ依リ、選炭場ヨリ架空索道
積込場迄ノ運搬ハ蒸氣機關車ニ依ル、選炭設備トシテハ塊、粉ニ分ツ「スクリーン」
ヲ有スルノミナリ

炭質ハ瀝青炭ニ屬シ、漆黒ニシテ光澤アリ、不粘結性ニシテ灰分少ク、發熱量大ナ
ルヲ以テ汽罐及家庭用炭トシテ好適セリ、出炭ノ大部分ハ泊居及野田製紙工場用ト
シテ供給セラレ、殘餘ハ附近町村ノ家庭用炭トシテ販賣セラレ

白 浦 炭 礦 (株太炭業株式会社)

榮濱郡白縫村ニアリ、鑛區面積約七十八萬坪ニシテ鑛業事務所ハ株太鐵道線白浦驛
ヲ距ル東二・三軒ノ位置ニ位ス、年出炭量約七萬噸ナリ、炭層ハ東海岸上部夾炭層群
ニ屬シ、走向東西、南ニ平均四十度ノ傾斜ヲ爲スモ其ノ西端ニ於テハ走向南北、傾
斜東ニ急變セリ、主要炭層數ハ五層ニシテ厚サ〇・六乃至一・二米ナリ、現在斜坑
ニ依リ一番層(〇・六米)、二番層(一・一米)及五番層(一・二米)ノ各水準以
下ヲ稼行セリ

採炭方法ハ柱房式及長壁式ニ依リ電氣「ドリル」ヲ使用ス、通氣ハ第一斜坑ハ電動
「シロツコ」式主要扇風機ヲ使用シテ機械通風ヲ行フモ第二斜坑ハ坑内淺キヲ以テ
自然通氣トス、坑内外ノ運搬ハ第一斜坑ニ於テハ馬匹、第二斜坑ニ於テハ手押炭車
ニ依リ、斜坑ハ何レモ蒸氣捲揚機ニ依ル

選炭設備トシテハ塊粉選別用「スクリーン」アルノミナリ、扇風機及「ドリル」用

トシテ二十「キロワット」ノ火力發電所アリ

炭質ハ瀝青炭ニ屬シ、灰分少ク汽罐及家庭用ニ好適ス、出炭ノ約半數ハ落合製紙工
場ニ供給シ其ノ殘餘ハ株太鐵道用、家庭用及島外移出用等ニ充ツ

鶴 巢 炭 礦 (株太炭業株式会社)

野田郡野田町ニアリ、鑛區面積約六十七萬坪ニシテ鑛業事務所ハ應鐵西海岸線鶴巢
驛附近ニ位ス、本炭礦ハ未ダ開坑早々ニシテ、昭和十年ニハ僅カニ三萬餘噸ヲ出炭
セルニ過ギザルモ漸次出炭量ヲ増加スベキ豫定ナリ

炭層ハ西海岸上部夾炭層群ニ屬シ、走向ハ北七十度東、傾斜ハ平均三十度北西ナリ
主要炭層トシテ現在判明セルモノハ目下稼行中ノ一番層(一・四米)、二番層(〇・九
米)及三番層(一・一米)ノ三層ナリ

從來沿層坑道ニヨリ其ノ上部ヲ、坑内斜坑ニヨリ其ノ下部ヲ採炭中ナリシモ、昭和
九年末ヨリハ更ニ前記沿層坑道ヨリ八十米下位ノ海岸ヨリ豎入坑道ヲ開鑿シ、各炭
層ニ着炭シ其ノ左右ニ沿層坑道ヲ設ケ其ノ上部ヲ採炭スルニ至レリ

採炭方法ハ原則トシテ長壁式ニ依リ、採炭跡ニハ乾式部分充填ヲ施ス、通氣ハ主ト
シテ自然通風ニ依リ、掘進用トシテ電動局部扇風機ヲ備ヘ運搬ハ斜坑用トシテ電動
捲揚機ヲ使用スル外坑内外共ニ手押炭車ニ依ル、搬出炭ハ「スクリーン」ニテ塊粉
ニ選別セル後直チニ鐵道貨車積ヲ行フモノトス

炭質ハ不粘結性瀝青炭ニシテ灰分少ク汽罐用トシテ好適シ、產出炭ノ大部分ハ之
ヲ内地ニ移出スルモノニシテ現在ニ於テハ應鐵線ニ依リ真岡港ヨリ積出シツ、アル
モ、更ニ鶴巢海岸ヨリノ沖積ミヲ爲サンガ爲海岸豎入坑口附近ニ選炭設備ヲ施スト
共ニ積出棧橋ヲモ建設セリ

櫻 保 炭 礦 (細入富重)

元泊郡元泊村ニアリ、鑛區面積約百萬坪ニシテ、鑛業事務所ハ株太鐵道線櫻保驛ヲ
距ル北方約半軒ノ地ニ位シ、年出炭量約二萬餘噸ナリ

炭層ハ東海岸上部夾炭層群ニ屬スルモノニシテ、走向北二十五度東、傾斜急ニシテ
東ニ七十度ナリ、主要炭層數ハ五層アリテ厚サ〇・四乃至一・四米ニ及ビ、現在三番
層(一米)、四番上層(〇・九米)及四番下層(〇・九米)ノ何レモ水準以上ヲ稼行
ス

採炭方法ハ長壁式ト柱房式ノ併用ニシテ全部手掘ニ依リ、通氣ハ自然通風ナリ、産出炭ハ手押炭車ニ依リテ塊粉選別用「スクリーン」ニ運ブ
炭質ハ不粘結性ノ低度瀝青炭ニシテ鐵道及家庭用ニ供セラル、他、一部ヲ内地ニ移出ス

塔路炭礦 (南樺太炭礦鐵道株式會社)

名好郡惠須取町ニアリ、鑛區面積九十四萬坪ニシテ鑛業事務所ハ西海岸惠須取港ヨリ國境安別方面ニ至ル國道十四軒附近ヨリ東北方四軒ノ地點ニ位シ、山元ト雄武洞海岸約七軒間ニ運炭軌道ヲ敷設シテ運輸ノ便ニ供ス、年産約十萬噸ナリ
炭層ハ大平炭礦ト同ジク西海岸上部夾炭層群ニ屬シ、走向大略北三十六度東、傾斜三十度内外西北ニシテ主要炭層ハ〇・七乃至二・五米ノモノ十層アリ
延長約八百米ノ大堅入坑道ニ依リテ各炭層ヲ直角ニ貫キ、二番層(二・三米)、四番層(〇・七米)、八番層(一・八米)及十番層(二米)中ニ沿層坑道ヲ掘進シ、水準以上ヲ稼行ス
採炭方法ハ長壁法ニ依リ採炭跡ハ乾式部分充填ヲ行ヒ、掘進用トシテ電氣「ドリル」ヲ使用ス、坑内運搬ハ主要運搬坑道ニ十軒ノ軌條ヲ敷設シ、一連炭車ニテ馬搬ヲ行ヒ、坑外ニ於テハ坑内ヨリ搬出サレタル石炭ヲ電氣捲揚機ニテ選炭場ニ捲揚シ「スクリーン」ニテ塊粉ニ篩別セル後貨車積ヲ爲シ蒸氣機關車ニ依リテ雄武洞海岸貯炭場迄搬送スルモノトス、通氣ハ自然通風ニ依レルモ必要ニ應ジ電動局部扇風機ヲ使用ス
炭質ハ一部粘結性ヲ有スル高度瀝青炭ニ屬シ灰分少ク發熱量大ニシテ汽罐用ニ好適シ、出炭ノ大部分ヲ内地、朝鮮遠クハ南支那方面ニ迄移出ス

美田炭礦 (濰口松太郎)

長濱郡知床村ニアリ、三鑛區ヨリ成リ總面積約百二十八萬坪ニシテ鑛業事務所ハ中知床半島彌滿海岸ノ東方約十軒ノ地點ニ位シ、此間「ガソリン」機關車軌道ヲ敷設シテ運輸ノ便ニ供ス
炭層ハ東海岸上部夾炭層群ニ屬シ、現在判明セル主要炭層ハ厚サ四乃至八米ノモノ一枚ニシテ、走向北三十乃至七十度東、傾斜三十度ヨリ直立ニ近キモノナリ
開坑以來鑛區ノ諸處ニ短距離ノ沿層坑道ヲ掘進シ探鑛ヲ爲セルノミニシテ何等ノ設

備ヲ爲サズ、昭和十年中ノ出炭量ハ僅カニ一萬七千噸ニ過ギザリシモ、略炭層ノ賦存状態ヲ明カニセルヲ以テ、昭和十年末ヨリ坑内外ノ施設ヲ整へ、發電所並選炭場ノ新設及斜坑ノ開鑿ニ着手スルニ至レリ、仍テ將來ノ出炭量ハ漸次増加スルニ至ルベシ

炭質ハ不粘結性ノ低度瀝青炭ニシテ灰分少ク、汽罐用、家庭用等ニ好適シ出炭ノ大部分ヲ内地ニ移出シ一部ハ大泊ヲ中心トシテ家庭用炭ニ供給セラル

内川炭礦 (三井鐵山株式會社)

敷香郡敷香町及内路村ニ跨リ、鑛區面積約七百八十五萬坪ニシテ、鑛業事務所ハ樺太鐵道線ノ終點南新間驛ヲ距ル北方約三十五軒ノ内川部落ニ在リ、山元ト其ノ東方十八軒ノ地點ナル敷香町トノ間ニハ運炭軌道ヲ敷設シテ運輸ノ便ニ供ス
本鑛區ハ昭和三年十二月ヲ以テ開封セラレタル北部封鎖炭田ノ一部ニシテ、競争入札ノ結果現鑛業權者ニ落札シ、昭和四年鑛區ノ設定ヲ爲シ爾來炭層ノ賦存状態ヲ精査シ企業計畫ヲ樹テ、着業ノ待期中ナリシ處、昭和九年ヨリ敷香町ニ日本人組「バルブ」株式會社敷香工場ノ建設ニ着手セラレタルヲ以テ爾來本格的操業ノ準備ニ着手シ、昭和十年ニハ諸坑口ヲ開坑スルト共ニ前記運炭軌道及諸工場ヲ完成シ、更ニ昭和十一年ニハ選炭場、發電所及共ノ他ノ諸設備ヲ完了シ、年産十萬噸ニ達セシムル豫定ナリ
炭層ハ東海岸上部夾炭層群ニ屬シ、主要炭層ハ厚サ〇・六乃至十米ノモノ十六層アリ、鑛区内ヲ南北ニ走レル一方向斜軸ニ依リテ東西兩翼ニ分タレ、傾斜ハ三十乃至八十度東又ハ西ナリ
炭質ハ不粘結性ノ低度瀝青炭ニシテ灰分少ク、汽罐及家庭用ニ好適シ、出炭ノ大部分ハ前記人組「バルブ」工場用炭トシテ供給セラル

東海炭礦 (寺島藤兵衛)

元泊郡元泊村ニアリ、鑛區面積約十七萬坪ニシテ鑛業事務所ハ樺太鐵道線北樞保驛附近ニ位シ、昭和十年ノ出炭量ハ僅カニ一萬餘噸ニ過ギザリシモ、昭和十年末ヨリ銳意坑内外ノ施設改善ニ努メツ、アルヲ以テ漸次出炭量ノ増加ヲ見ルニ至ルベシ
炭層ハ樞保炭礦同様東海岸上部夾炭層群ニ屬シ、走向北二十度東、東方ニ七十度内外ノ急傾斜ヲ示シ、一米内外ノ炭層十枚ヲ挟有シ、現在主トシテ二番層(一・二米)

及四番層（一米）ノ水準以上ヲ稼行中ナリ
採炭方法ハ從來柱房式ニ依レルモ漸次長壁式ニ改メ能率ノ増進ヲ示シツ、アリ、未
ダ何等ノ動力設備ヲ有セズ

炭質ハ低度瀝青炭ニ屬シ、汽罐用及家庭用ニ適シ、約半數ハ内地ニ移出シ其他ハ附
近家庭用及鐵道用トシテ販賣セラル

其ノ他ノ炭鑛

前記以外ノ諸炭鑛ハ何レモ試掘、或ハ一時的小量出炭ノ稼行ヲ爲スモノニシテ、各
出炭量ハ一萬噸ニモ達セズ、何等見ルベキモノナキモ、久春内郡三濱村ニ存スル珍
内炭鑛ハ既ニ山元珍内海岸十五軒間ニ運炭軌道ノ敷設ヲ完成シ、又名好郡名好村ニ
存スル安別、知内兩炭鑛ハ共ニ良好ナル骸炭用原料炭ヲ産シ、何レモ今後漸次出炭
量ノ増加ヲ見ラルベシト期待セラル

6. 鑛 夫

昭和十年末鑛夫總數ハ男四千六百八十九人、女二百五十四人、合計四千九百四十三人
ニシテ前年末ニ比シ男一千二百八十一人、女四十人、合計一千三百二十一人ノ著シキ
増加ヲ示セリ、之等ノ鑛夫中石油山ニ從事セルモノ男三十六人、内幌低温乾溜工場ニ
從事セルモノ男九十九人ニシテ其ノ他ハ總テ石炭山ニ從事セルモノナリ

昭和十年中ニ於ケル石炭山一工當賃金ハ全鑛夫平均二圓十三錢ニシテ前年ニ比シ一錢
高ヲ示シ、採炭夫平均二圓八十三錢ニシテ之亦九錢高トナレリ、一工當出炭量ハ全鑛
夫平均一・二六噸ニシテ前年ニ比シ〇・〇三噸ノ低下ヲ示シ、採炭夫平均三・八四噸
ニシテ前年ニ比シ〇・二五噸ノ昂上ヲ示セリ

鑛夫員數及延工數累年比較表 (1)

年次	性別	石炭山		石油山		低温乾溜		計	
		員數	延工數	員數	延工數	員數	延工數	員數	延工數
昭和六年	男	1,501	455,955	40	10,497	-	-	1,541	456,452
	女	67		1		68			
昭和七年	男	1,553	455,549	57	17,076	-	-	1,610	472,625
	女	79		1		80			

鑛夫員數及延工數累年比較表

年次	性別	石炭山		石油山		低温乾溜		計	
		員數	延工數	員數	延工數	員數	延工數	員數	延工數
昭和八年	男	2,487	621,071	46	21,353	-	-	2,533	642,424
	女	118		-		118			
昭和九年	男	3,370	930,823	38	12,952	-	-	3,408	943,775
	女	214		-		214			
昭和十年	男	4,554	1,197,994	36	13,223	99	38,992	4,689	1,250,089
	女	254		-		254			

石炭山鑛夫賃金及出炭能率累年比較表

年次	性別	全鑛夫一工當		採炭夫一工當	
		賃金	出炭量	賃金	出炭量
昭和六年		2.42	3.00	1.37	3.18
昭和七年		2.17	2.70	1.48	3.38
昭和八年		2.08	2.53	1.42	3.64
昭和九年		2.12	2.74	1.29	3.59
昭和十年		2.13	2.83	1.26	3.84

7. 鑛山變災

昭和十年中ニ於ケル石炭山ノ變災回數ハ一千二百三十五回、死者十一人、重傷者二百
四十五人、輕傷者九百八十八人、合計一千二百四十四人ニシテ前年ニ比シ變災回數三
百二十四回、死者三人、重傷者五十八人、輕傷者百八十二人ヲ何レモ増加シ合計ニ於
テ二百四十三人ヲ増加セリ、尙石油山ニ於ケル負傷者ハ輕傷者一人ニシテ前年ニ比シ
三人ノ減少ヲ示シ、石炭低温乾溜工場ニ於テ三人ノ輕傷者ヲ出セリ

石炭山鑛夫死傷者種別表 (1)

種別	回數	死傷人員			
		死	重傷	輕傷	計
落 斃	319	4	96	222	322
坑 瓦斯又ハ炭塵ノ爆發	14	-	5	12	17
内 自動車道又ハ捲揚車道ニ於テ	27	1	8	20	29
鑛 車 ノ 爲	174	1	42	131	174

石炭山鑛夫死傷者種別表 (2)

種 別	回 數	死 傷 人 員				計
		死 亡	重 傷	輕 傷		
坑 內	發破又ハ爆發藥ノ爲	6	—	3	3	6
	瓦斯ノ中毒又ハ窒息	2	2	—	—	2
	機 械 ノ 爲	38	—	9	29	38
	電 氣 ノ 爲	1	—	—	1	1
	其 ノ 他	524	1	66	458	525
計	1,105	9	229	876	1,114	
坑 外	機 械 ノ 爲	23	—	2	21	23
	礦車又ハ架索道ノ爲	36	—	8	28	36
	電 氣 ノ 爲	1	1	—	—	1
	其 ノ 他	70	1	6	63	70
計	130	2	16	112	130	
合 計	1,235	11	245	988	1,244	

昭和十一年十二月二十日印刷

昭和十一年十二月廿五日發行

商工省鑛山局編纂

東京市麴町區有樂町二丁目七番地

發行所 朝陽印刷株式會社

電話丸ノ内(23)九五五番

東京市麴町區有樂町二丁目七番地

印刷人 吉 岡 清 次

東京市麴町區有樂町二丁目七番地

印刷所 朝陽印刷株式會社

定價金四圓

321

39

本印刷物ノ寸法ハ商工省
規格統一調査會決定ニ係
ル一紙ノ仕上寸法規格一
B列5番ニ準據セリ。

321-39



1200501376344

21

39

終